PERIODICAL
LIBRARY
NOV 20 1959
FISH & WILDLIFE SERVICE

#62

#62

October 1958
operations

NO.
e
76

鮪漁業　第六十二号　昭和三十四年九月十日発行　（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可

鮪漁業

TUNA FISHING

— 第23黒潮丸の水揚したユーゴスラビア，ペラルカ（コルチユラ島）の港と街 —　　本誌記事参照

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY JAPAN

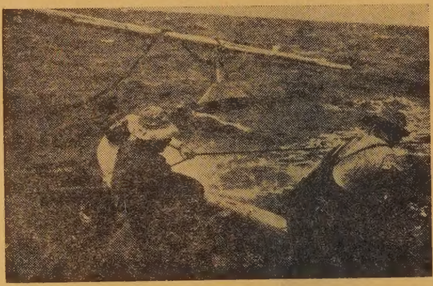
鮪漁業　研究会

Sept. 1959

No. 62, 1959

倉敷
ビニロン
クレモナ万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網



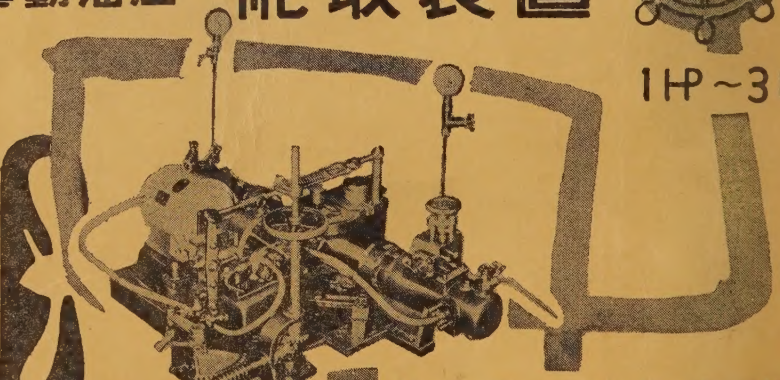
くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町2の4

川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

1HP～3HP



其の他ディーゼル機関の排気利用による小型船用造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四（電）湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目（日比谷ビル）（電）(59)6101
（本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します）

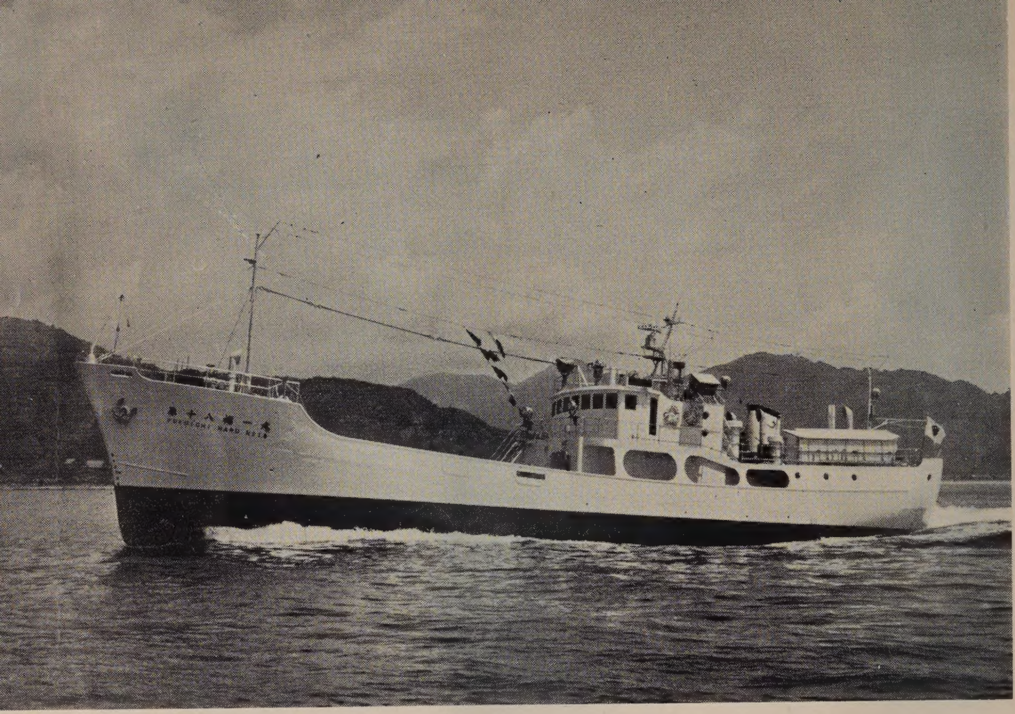
目　次

鮪漁船紹介　第18福一丸　第3秋津丸
鮪漁場図　(1958年10月操業)
鮪漁況速報　7月下旬，8月上旬，中旬
1958年10月に於ける鮪漁場の漁況と海況 (委託調査船274隻の資料による)
Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in Oct. 1958 (By the data collected from the 274 appointed boats) …… 1
1. 調査の概要 …… 1
2. 漁況の概要 …… 1
3. 各海区の漁況と海況 …… 3
A. 赤道以北140°W以東の漁場 …… 3
B. 赤道以南140°W 以東の漁場 …… 3
C. 赤道以北180—140°Wの漁場 …… 4
D. 赤道以南180—140°Wの漁場 …… 6
E. 北部太平洋漁場 …… 8
F. 旧南洋庁沿海漁場 …… 9
G. ソロモン以南漁場 …… 10
H. 東部印度洋漁場 …… 12
I. 中西部印度洋漁場 …… 13
J. 大西洋漁場 …… 14
月別，漁場別，鮪類漁獲調査表 (1958年10月操業分) 別表1 …… 16
月別，漁場別，鮪類体長組成表 (1958年10月操業分) 別表2 …… 20
マグロ漁況概況予報 (1959年11月) …… 神奈川県水試漁業指導科 …… 29
かつをまぐろ漁業の現況とその問題点　北洋さけ・ます漁業者による，かつを・まぐろ漁業転換問題に関連して …… 30
マグロ研究報告の紹介 No.5 …… 33
鮪類標識放流について …… 33
第23黒潮丸のユーゴスラビア水揚だより …… 第23黒潮丸 通信士 坂井真澄 …… 34
業界メモ (1959年9月) …… 36
本会の図書誌の分譲其の他について …… 37

各種漁船用ディーゼル機関は定評ある
50馬力～5000馬力

株式会社　赤阪鉄工所

本社　東京都中央区銀座一ノ三(千成屋ビル) 電話京橋 (56) 4902～3
北海道出張所　札幌市北四条西六丁目 (北洋ビル)　電話 (3) 4507
大阪出張所　大阪市東区北浜四ノ三八　電話北浜 (23) 4790
工場　静岡県焼津市中港町五九四　電話 (焼津) 2121～5



第18　福　一　丸

船主	近藤三吉（焼津市）	
造船所	株式会社　三保造船所	
主要寸法	長36.44m×幅7.10m×深3.45m	
総屯数	252.45屯	
魚艙容積	$258.43m^3$	
燃料油艙	$131.19m^3$	
速力	最大　12.38節	
主機	デーゼル650HP（新　潟）	1基
補機	デーゼル100HP（新　潟）	2基
無線	250W，75W（穂高通信）	各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式50HP，40HP	各1基
レーダー（東京計器）音測，M．C．P． 操舵機（ヘルショウ型）其の他		各1式
竣工	昭和34年6月17日	

最新の技術と堅

穂高の漁業

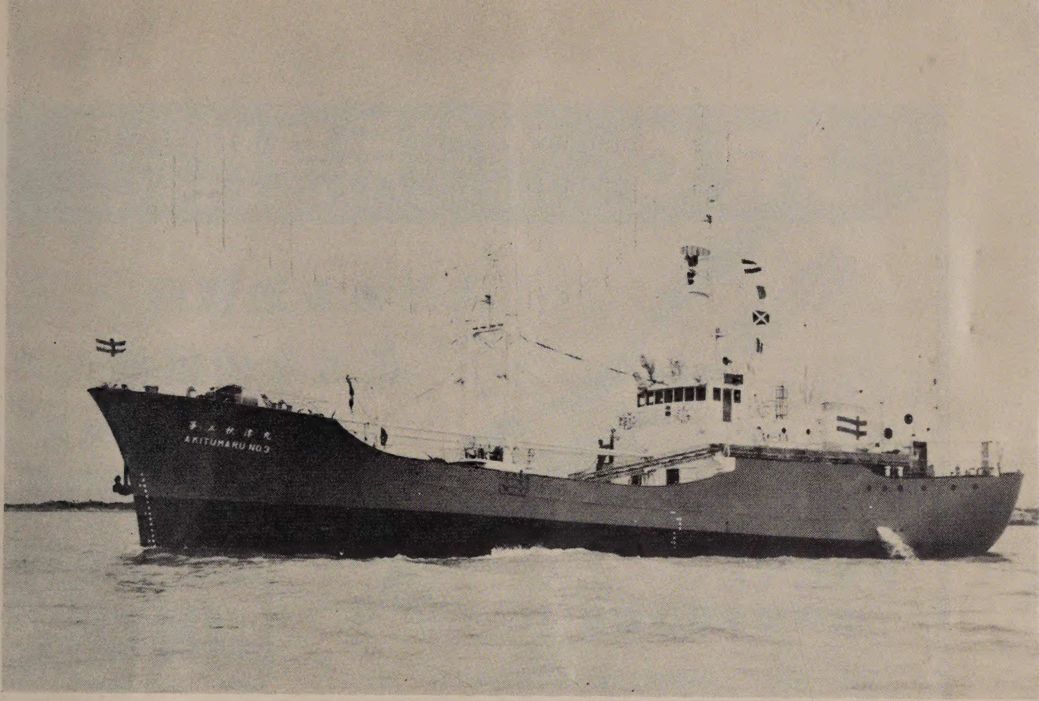
穂高通信工

本社工場　東京都新宿区下
大阪営業所　大阪市西区京町堀上通2
長野工場　長野県南安曇郡穂
代理店　小樽・函館・八戸・気
銚子・三崎・清水・焼

鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社　**三保造船所**

本社　静岡県清水市三保3797　電話清水(2)代表2201番
東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705　電話　千代田（27）5522.6775.9761番



第 3　秋津丸

船主	極洋捕鯨株式会社
造船所	株式会社　新潟鉄工所
主要寸法	長48.00m×幅8.50m×深4.25m
総屯数	495.88屯
魚艙容積	500m³
燃料油艙	280m³
速力	最大　13.40節
主機	デーゼル1,100HP過給機付（新潟）1基
補機	デーゼル　165HP（新潟）2基
無線	500W，250W，50W（日本無線）各1基
冷凍装置	日新興業設計施工　75HP　1基 アンモニヤ直膨式 高速多気筒　50HP　2基
レーダー（日本無線），ローラン（〃），方探（光電） 音測兼魚探（産研），操舵機（ヘルショウ型） 其の他 各1式	
竣工	昭和34年7月15日

高性能を誇る
機を
業株式会社
—6　TEL（95）2595・6219
ビル　TEL（44）5792・4109
79　TEL（穂高）61
巻・塩釜・小名浜・那珂湊
・下関

漁船の冷凍装置に定評ある
日新興業株式会社
本社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736（代表）
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）7607（代表）
室戸出張所　高知県室戸市室津　TEL. 室戸 352
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水（2）3507
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町西野34　TEL. 三浦 2751
石巻出張所　宮城県石巻市門脇町104　TEL. 石巻 505

施工船名
第3秋津丸
第18福一丸
第5秋津丸
第18崎吉丸
第28事代丸
第35宝幸丸
（其の他約七百隻）

JRC　漁船用無線装置

常に新しい研究と最高技術に輝く

定評ある**送信機**

優秀な**受信機**

新設計の**船内拡声装置**

超小型魚群探知機

日本の誇り
国産レーダー

漁場の測定に
ロラン受信機

安全航海に
気象模写受信装置

本社・工場　東京都三鷹市上連雀930
事業部　東京都港区芝田村町1の7
第3森ビル（5・6階）
大阪支社　大阪市北区堂島中1の22

JRC

日本無線

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場　清水市三保4010—19　電話　清水(2)4111～5
塚間工場　清水市三保弁天492　電話　清水(2)5151～2
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話　芝(59)1306～8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話（三浦）2851

船出の支度
石油は出光で

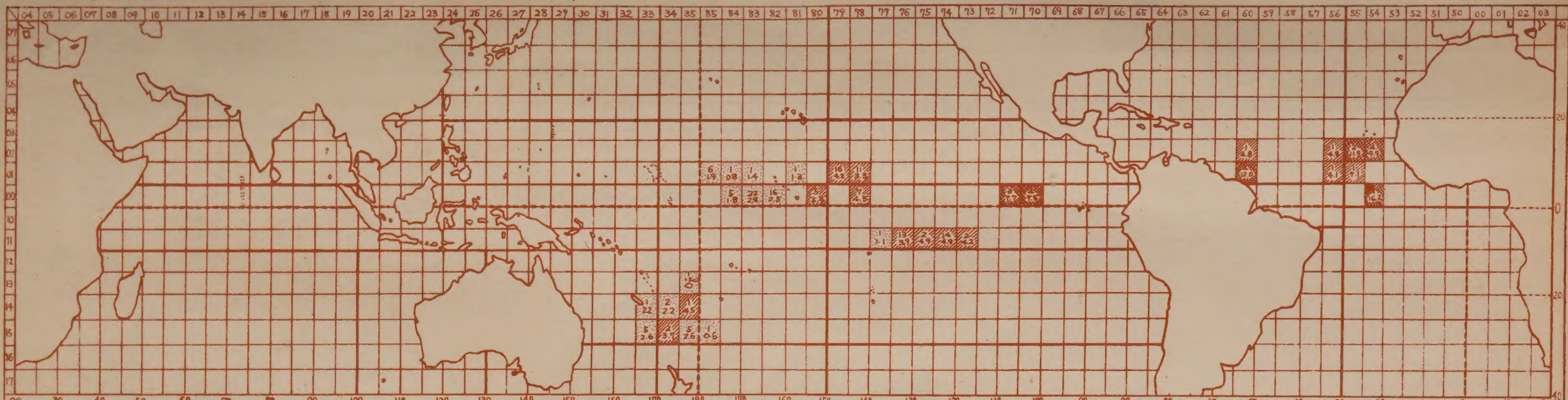
安全快適な航海の為に
是非・・・・・

出光興産株式会社

本社　東京・銀座東四丁目
三崎出張所　三浦市三崎町海南　電話三浦432

マグロ漁況速報 1959年 7月 下旬

■ は7.5尾以上，▨ は3.1尾から7.5尾まで，░ は3.1尾以下を示す。また，上段の数字は操業船数 下段の数字は釣獲率を示す。



（海区の分類）

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北，E80°以西	西太4	西太平洋4	S10°~S30°，E130°~E170°	東太3	東太平洋3	N5°~S10°，W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北，E80°~E100°	〃5	〃 5	S30°以南，〃	〃4	〃 4	S10°~S30°，〃
中印	中印度洋	N5°~S10°，E100°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北，E170°~W150°	〃5	〃 5	S30°以南，〃
南印	南印度洋	S10°以南，E20°~E100°	〃2	〃 2	N5°~N20°，〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北，W30°以西
南支	南支那海	N5°以北，E120°以西	〃3	〃 3	N5°~S10°，〃	〃中	〃 中部	N5°~S5°，〃
西太1	西太平洋1	N20°以北，E120°~E170°	〃4	〃 4	S10°~S30°，〃	〃南	〃 南部	S5°以南，〃
〃2	西太平洋2	N5°~N20°，〃	〃5	〃 5	S30°以南，〃	東大北	東大西洋北部	0°以北，W30°以東
〃3	西太平洋3	N5°~S10°，〃	東太1	東太平洋1	N20°以北，W150°以東	〃南	〃 南部	0°以南，〃
濠西	濠州西部	S10°以南，E100°~E130°	〃2	〃 2	N5°~N20°，〃			

（魚種組成）

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	雑
中太2	48.0	37.6				11.3			0.3	2.8
中太3	77.1	17.6	0.2			4.8	0.2		0.1	
中太4	12.2	2.1	74.9			0.7		0.9	0.7	8.6
東太2	41.2	51.9				5.9	0.2	0.4	0.4	
東太3	28.0	57.8	8.0			3.8	0.6	1.3	0.5	
東太4	30.8	2.5	60.2			0.3	0.1	4.9	0.3	1.0

（概況）　パルミラ以西の5°N以北は全般的に漁獲が低いが，全漁船が5°N周辺で操業しており，この海域のキハダは既に南下し始めたものと考えられる。ファンニング以西の5°N以南は170-160°Wが1-3°N，175-170°Wが3-4°Nで操業されており，170-160°Wの方が漁獲が高くなっている。この海域の漁獲は殆んどキハダによって占められているが，170-160°Wのキハダの釣獲率は3.5-3.7で昨年と同率である。

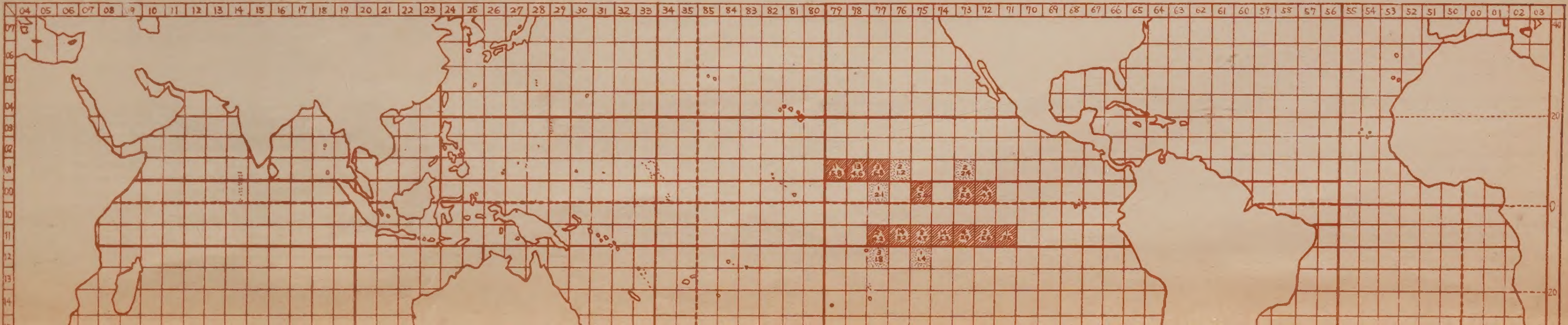
クリスマス東方及び北東海域はかなり漁獲が高いが，この海域は殆んどの漁船が4-7°Nで操業しており，その漁獲の過半は6月以降増加して来たメバチによって占められており，釣獲率は2.8で予報通りである。ただし，5-10°N，145-140°Wの海域のみは1.4で低い。また，キハダは最盛期で1.5-2.0の釣獲率を示し，キハダとメバチの両者が共に釣れるので，総漁獲量が高くなっている。

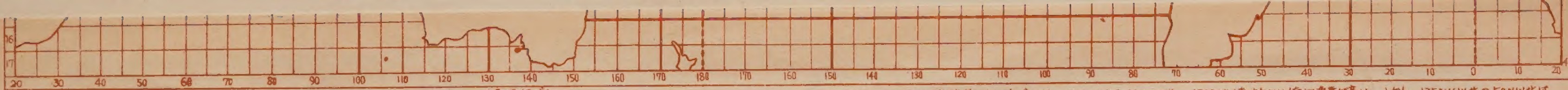
マーケサス北東海域は非常に漁獲が高いが約60%はメバチであり，また ガラパゴス西方の海域は太平洋における最高の漁獲であるが，キハダとメバチの割合は同じである。フィージー，ニューカレドニア南方の海域は，フィージー南方とノーフォーク島周辺を中心に，ビンナガのかなりの漁獲がみられ，フィージー北方海域は予報通り漁獲が低い。

（註）漁場小区の番号一緯度，経度の符号で示す。北緯及東経では夫々の符号を省略した数値から5°上位までの範囲。南緯，西経は夫々10及50から始まるので，これらの数値から10及50を引いて5°をかけたものから5°上位までの範囲

マグロ漁況速報 1959年 8月 上旬

■ は7.5尾以上，▨ は3.1尾から7.5尾まで，░ は3.1尾以下を示す。また，上段の数字は操業船数 下段の数字は釣獲率を示す。





（海区の分類）

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北、E80°以西	西太4	西太平洋4	S10°~S30°、E130°~E170°	東太3	東太平洋3	N5°~S10°、W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北、E80°~E100°	〃5	〃 5	S30°以南、 〃	〃4	〃 4	S10°~S30°、 〃
中印	中印度洋	N5°~S10°、E100°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北、E170°~W150°	〃5	〃 5	S30°以南、 〃
南印	南印度洋	S10°以南、E20°~E100°	〃2	〃 2	N5°~N20°、 〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北、W30°以西
南支	南支那海	N5°以北、E120°以西	〃3	〃 3	N5°~S10°、 〃	〃中	〃 中部	N5°~S5°、 〃
西太1	西太平洋1	N20°以北、E120°~E170°	〃4	〃 4	S10°~S30°、 〃	〃南	〃 南部	S5°以南、 〃
〃2	西太平洋2	N5°~N20°、 〃	〃5	〃 5	S30°以南、 〃	東大北	東大西洋北部	0°以北、W30°以東
〃3	西太平洋3	N5°~S10°、 〃	東太1	東太平洋1	N20°以北、W150°以東	〃南	〃 南部	0°以南、 〃
濠西	濠洲西部	S10°以南、E100°~E130°	〃2	〃 2	N5°~N20°、 〃			

（魚種組成）

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	雑
東太2	25.2	65.0				8.6	0.4	0.5	0.4	
東太3	32.9	47.4	13.5			4.1	0.5	1.5	0.2	
東太4	24.2	5.1	67.8			1.7		0.7		0.5

（概況）　150°W以東の赤道以北の海域では、135°W以西は5°N以北、130°W以東は5°N以南が漁獲が高い。しかし、135°W以北の5°N以北は3分の1がメバチであるのに対し、130-115°Wの5°N以南はキハダが4分の3を占め、組成が異なっている。なお5°S以南の115°W以東はキハダよりメバチの方が多い。

また、5-10°Sの140-105°Wの海域も漁獲が高いが、115°W以西はメバチが多く、115°W以東はキハダが多く、0-5°Nの水帯の分布と丁度逆である。10°S以南はビンナガが多獲されているが、キハダ、メバチが混ざらないので漁獲尾数は低い。

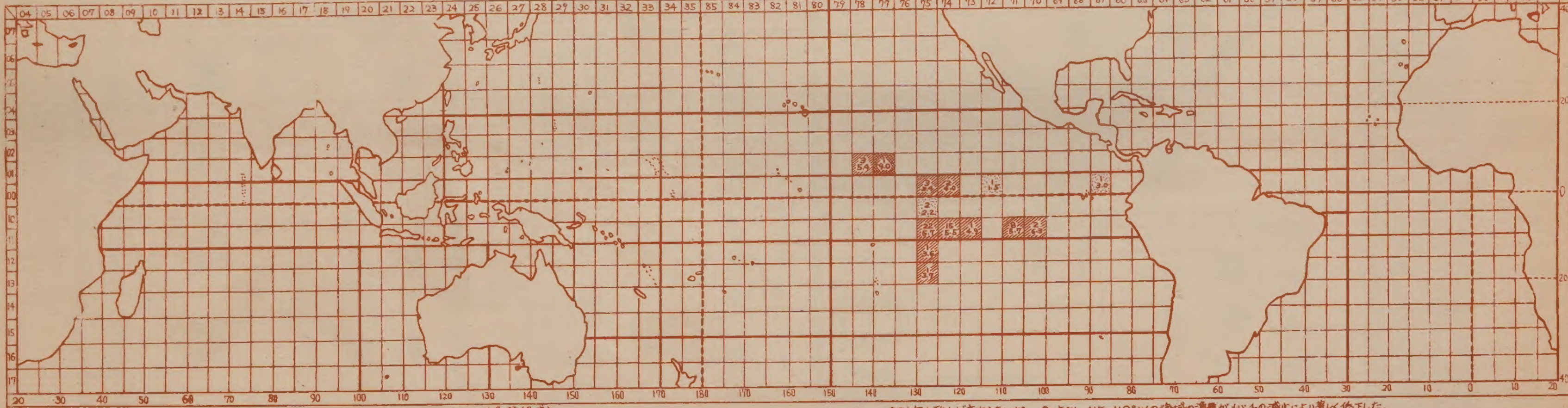
5°N以北の135°W以西のメバチの漁獲は約3.0尾で平年より稍高く、5°N以南の130-115°Wのキハダの漁獲は2.7-3.4尾で平年より著しく高い。

5-10°Sの115°W以西のメバチの漁獲は約2.7尾で平年並み。5-10°Sの115°W以東のキハダの漁獲は約3.0尾で秋季の漁期に入ったものと考えられる。

（註）漁場小区域の番号一緯度、経度の番号で示す。北緯及東経ではその番号に5をかけた数値から5°上位までの範囲。南緯、西経は夫々10及50から始まるので、これらの数値から10及50を引いて5°をかけたものから5°上位までの範囲

マグロ漁況速報　1959年　8月中旬

▩ は7.5尾以上、▨ は3.1尾から7.5尾まで、□ は3.1尾以下を示す。また、上段の数字は操業船数、下段の数字は釣獲率を示す。



（海区の分類）

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北、E80°以西	西太4	西太平洋4	S10°~S30°、E130°~E170°	東太3	東太平洋3	N5°~S10°、W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北、E80°~E100°	〃5	〃 5	S30°以南、 〃	〃4	〃 4	S10°~S30°、 〃
中印	中印度洋	N5°~S10°、E100°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北、E170°~W150°	〃5	〃 5	S30°以南、 〃
南印	南印度洋	S10°以南、E20°~E100°	〃2	〃 2	N5°~N20°、 〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北、W30°以西
南支	南支那海	N5°以北、E120°以西	〃3	〃 3	N5°~S10°、 〃	〃中	〃 中部	N5°~S5°、 〃
西太1	西太平洋1	N20°以北、E120°~E170°	〃4	〃 4	S10°~S30°、 〃	〃南	〃 南部	S5°以南、 〃
〃2	西太平洋2	N5°~N20°、 〃	〃5	〃 5	S30°以南、 〃	東大北	東大西洋北部	0°以北、W30°以東
〃3	西太平洋3	N5°~S10°、 〃	東太1	東太平洋1	N20°以北、W150°以東	〃南	〃 南部	0°以南、 〃
濠西	濠洲西部	S10°以南、E100°~E130°	〃2	〃 2	N5°~N20°、 〃			

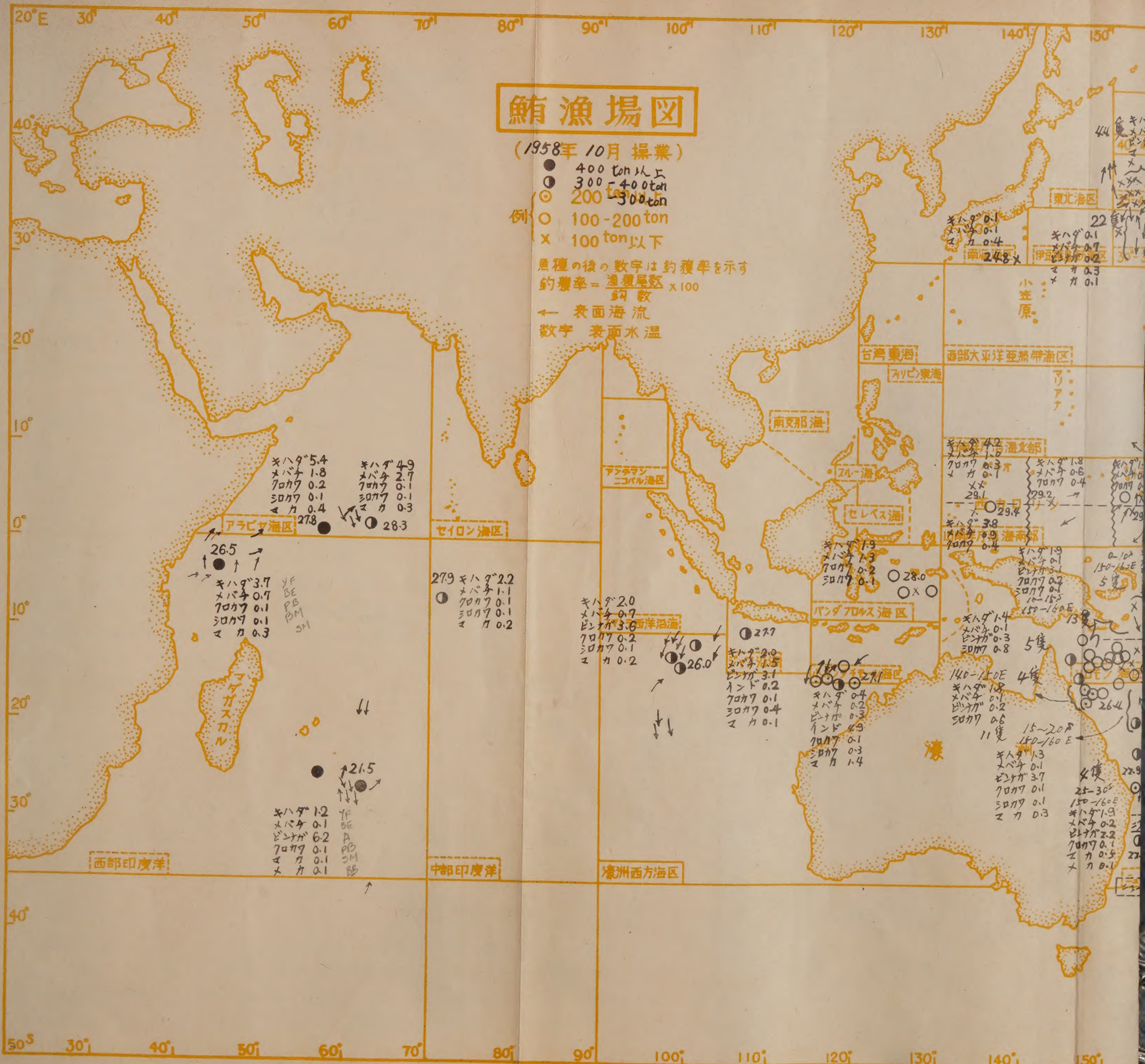
（魚種組成）

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	雑
東太2	10.9	77.4				10.7	0.7		0.2	
東太3	28.0	60.8	6.1			3.4	0.1	1.2	0.2	0.1
東太4	20.1	19.5	35.1			2.9	1.7	2.3	1.1	17.2

（概況）　8月上旬と殆んど変わらないが、0-5°N、115-110°Wの海域の漁獲がメバチの減少により著しく低下した。

魚種の分布は上旬と変化なく、0-5°N、130-110°Wと5-10°S、110-100°Wの海域はキハダ、5-10°N、145-135°W、0-5°S、130-125°W、5-10°S、130-115°W、及び0-5°N、90-85°Wの海域はメバチにより、殆んどが占められている。

（註）漁場小区域の番号一緯度、経度の番号で示す。北緯及東経ではその番号に5をかけた数値から5°上位までの範囲。南緯、西経は夫々10及50から始まるので、これらの数値から10及50を引いて5°をかけたものから5°上位までの範囲



鮪漁場図

(1958年 10月 操業)

例
- ● 400 ton以上
- ◑ 300-400ton
- ⊙ 200-300ton
- ○ 100-200 ton
- × 100 ton以下

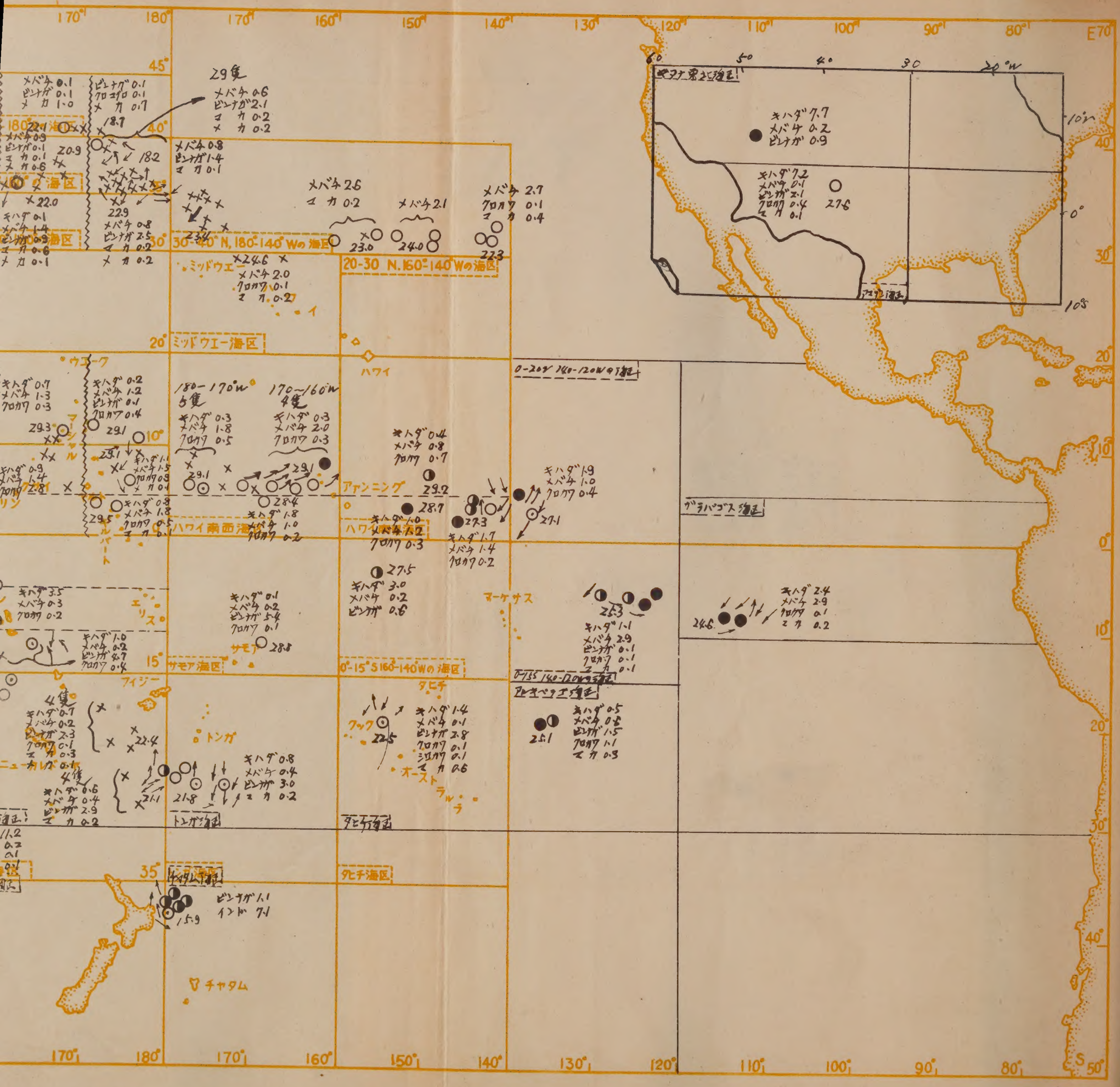
魚種の後の数字は釣獲率を示す

$$\text{釣獲率} = \frac{\text{漁獲尾数}}{\text{鈎数}} \times 100$$

← 表面海流

数字 表面水温

20°E
30°
40°
50°
60°
70°
80°
90°
100°
110°
120°
130°
140°
150°
40°
30°
20°
10°
0°
10°
20°
30°
40°
50°S
アラビヤ海区
セイロン海区
アンダマン ニコバル海区
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
マダガスカル
南支那海
台湾東海
フィリピン東海
スルー海
セレベス海
バンダ フロルス海区
西部大平洋亜熱帯海区
小笠原
マリアナ
東北海区
南海海区
伊豆諸島南方海区
ソロモン海区
濠
キハダ 5.4
メバチ 1.8
クロカワ 0.2
シロカワ 0.1
マ カ 0.4
27.8
キハダ 4.9
メバチ 2.7
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マ カ 0.3
28.3
26.5
キハダ 3.7
メバチ 0.7
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マ カ 0.3
YF
BE
PB
BM
SM
27.9
キハダ 2.2
メバチ 1.1
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マ カ 0.2
21.5
キハダ 1.2
メバチ 0.1
ビンナガ 6.2
クロカワ 0.1
マ カ 0.1
メ カ 0.1
YF
BE
A
PB
SM
BB
キハダ 2.0
メバチ 0.7
ビンナガ 3.6
クロカワ 0.2
シロカワ 0.1
マ カ 0.2
26.0
27.7
キハダ 2.0
メバチ 1.5
ビンナガ 3.1
インド 0.2
クロカワ 0.1
シロカワ 0.4
マ カ 0.1
27.1
キハダ 0.4
メバチ 0.2
ビンナガ 0.3
インド 4.9
クロカワ 0.1
シロカワ 0.3
マ カ 1.4
キハダ 1.9
メバチ 1.3
クロカワ 0.2
シロカワ 0.1
28.0
キハダ 4.2
メバチ 1.0
クロカワ 0.3
メ カ 0.1
29.1
29.4
キハダ 3.8
メバチ 0.9
クロカワ 0.4
キハダ 1.8
メバチ 0.6
クロカワ 0.4
29.2
キハダ 1.9
メバチ 0.1
ビンナガ 3.1
クロカワ 0.2
シロカワ 0.1
10-15S
150-160E
0-10S
150-160E
5隻
13隻
キハダ 1.4
メバチ 0.1
ビンナガ 0.3
シロカワ 0.8
5隻
140-150E
4隻
キハダ 1.8
メバチ 0.1
ビンナガ 0.2
シロカワ 0.6
11隻
15~20S
150-160E
キハダ 1.3
メバチ 0.1
ビンナガ 3.7
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マ カ 0.3
26.4
4隻
25-30S
150-160E
キハダ 1.9
メバチ 0.2
ビンナガ 2.2
クロカワ 0.1
マ カ 0.5
メ カ 0.1
キハダ 0.1
メバチ 0.1
マ カ 0.4
24.8
キハダ 0.1
メバチ 0.7
ビンナガ 0.2
マ カ 0.3
メ カ 0.1
22隻
44隻


170°
180°
170°
160°
150°
140°
130°
120°
110°
100°
90°
80°
E70°
45°
40°
30°
20°
10°
0°
15°
35°
29隻
メバチ 0.6
ビンナガ 2.1
マ カ 0.2
メ カ 0.2
メバチ 0.1
ビンナガ 0.1
メ カ 1.0
ビンナガ 0.1
クロカジキ 0.1
メ カ 0.7
18.7
182
20.9
22.0
22.9
メバチ 0.8
ビンナガ 1.4
マ カ 0.1
メバチ 0.8
ビンナガ 2.5
マ カ 0.2
メ カ 0.2
30-40° N, 180°-140° Wの海区
メバチ 2.6
マ カ 0.2
メバチ 2.1
メバチ 2.7
クロカワ 0.1
マ カ 0.4
23.0
24.0
22.3
24.6
メバチ 2.0
クロカワ 0.1
マ カ 0.2
ミッドウエー
20-30 N.160°-140°Wの海区
ミッドウエー海区
ハワイ
ウエーク
0-20°N 140-120°Wの海区
キハダ 0.7
メバチ 1.3
クロカワ 0.3
キハダ 0.2
メバチ 1.2
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.4
29.3
29.1
180-170°W 5隻
キハダ 0.3
メバチ 1.8
クロカワ 0.5
170-160°W 4隻
キハダ 0.3
メバチ 2.0
クロカワ 0.3
キハダ 0.4
メバチ 0.8
クロカワ 0.7
29.2
28.7
27.3
キハダ 1.9
メバチ 1.0
クロカワ 0.4
27.1
キハダ 1.1
メバチ 1.5
クロカワ 0.9
マ カ 0.1
キハダ 0.8
メバチ 1.8
クロカワ 0.5
マ カ 0.1
28.4
キハダ 1.8
メバチ 1.0
クロカワ 0.2
29.5
アンニング
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
キハダ 1.0
メバチ 1.2
クロカワ 0.3
キハダ 1.7
メバチ 1.4
クロカワ 0.2
ガラパゴス海区
マーシャル
ギルバート
27.5
キハダ 3.0
メバチ 0.2
ビンナガ 0.6
キハダ 3.5
メバチ 0.3
クロカワ 0.2
キハダ 0.1
メバチ 0.2
ビンナガ 5.4
クロカワ 0.1
サモア
28.8
エリス
マーケサス
25.3
キハダ 1.1
メバチ 2.9
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.1
マ カ 0.1
24.6
キハダ 2.4
メバチ 2.9
クロカワ 0.1
マ カ 0.2
キハダ 1.0
メバチ 0.2
ビンナガ 4.7
クロカワ 0.4
サモア海区
0°-15°S 160°-140°Wの海区
0-15S 140-120Wの海区
アルベマール海区
フィジー
タヒチ
4隻
キハダ 0.7
メバチ 0.2
ビンナガ 3.3
クロカワ 0.1
マ カ 0.3
22.4
ニューカレドニア
4隻
キハダ 0.6
メバチ 0.4
ビンナガ 2.9
マ カ 0.2
21.1
21.8
キハダ 0.8
メバチ 0.4
ビンナガ 3.0
マ カ 0.2
トンガ
トンガ海区
クック
22.5
キハダ 1.4
メバチ 0.1
ビンナガ 2.8
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マ カ 0.6
オーストラル
25.1
キハダ 0.5
メバチ 0.8
ビンナガ 1.5
クロカワ 1.1
マ カ 0.3
タヒチ海区
チャタム海区
ビンナガ 1.1
インド 7.1
15.9
タヒチ海区
チャタム
60
50
40
30
20°W
パナマ東北海区
10°N
0°
10°S
キハダ 7.7
メバチ 0.2
ビンナガ 0.9
キハダ 7.2
メバチ 0.1
ビンナガ 2.1
クロカワ 0.4
マ カ 0.1
27.6
アマゾン海区
S 50°

1958年・10月に於ける鮪漁場の漁況と海況

（委託調査船274隻の資料に依る）

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in October 1958

(By the data collected from the 274 appointed boats)

1 調査の概要

調査船数は夏季より増加を続けつつあり、10月には274隻となつて、9月より約100隻多い。調査海区数は35で、9月に比較すると、太平洋東経北部漁場の調査船が激増し、ソロモンおよびニューカレドニア両海区における調査船の増加もめだつている。体長測定船数は136, 全調査船を調査港別にみると、三崎79隻、東京159隻、焼津36隻である。

2 漁況の概要

（キハダ）

0—20°N, 140—120°W の海区南西部ではやや好漁となり、ガラパゴス海区も好漁が得られ、0—15°S, 140—120°W の海区は低率、アルキペラゴ海区北西部も不漁となつた。ハワイ南東海区 5°N以北は既に不漁期、5°N以南の海区も低下しつつある。南西海区 5°N 以北は南東海区と同様、南西海区 5°N 以南も南東海区と同傾向である。0—15°S, 160—140°W の海区北西部は高率、タヒチ海区北西部はやや好漁、サモア海区南部は極めて不漁、トンガ海区南西部は低く、南洋北部のマーシャル附近は好漁、南洋南部海域では150°E以東の海域が低い。ソロモン海区においては、5—10°S, 150—160°でやや好漁であり、他海域は比較的低率である。ニューカレドニア海区は西部を除いて不漁、ニュージーランド海区においては、北西部の濠洲大陸沿岸、30°S線南側で異常な高率があつた。バンダ • フロレス海区はやや好漁、小スンダ • チモール海区では不漁期にある。ジヤワ沿海および濠洲西方海区北西部は好漁、中部印度洋海区北西部はこの海区としては不漁、アラビア海区南部赤道附近は高率、西部印度洋海区南東部は低いが、北西部赤道附近は好漁が得られている。大西洋のギアナ東北海区南部は夏から低下しているが好漁、アマゾン海区北部 40°W 附近は、ギアナ東北海区とほぼ同様の好漁であつた。

（メバチ）

0—20°N, 140—120°W の海区南西部は低率、ガラパゴス海区南西部もこの海区としてはやや低く、0—15°S, 140—120°W の海区東部は好漁、アルキペラゴ海区は 9 月と同率で低い、30—40°N, 180—140°W の海区においては東部で好漁、ハワイ南東海区は 5°N以北以南とも低率となり、ミッドウエー海区は好漁前期に入つてやや好漁、南

西海区 5°N以北は僅か低く、5°N以南の海域はやや好漁、0—15°S, 160—140°W の海区北西部、タヒチ海区はともに低率、サモア、トンガ両海区も不漁である。40—145°N, 150°E—180°の海区は不漁、35—40°N, 150°E—180°の海区および30—35°N, 150°E—180°の海区は好漁、南海海区南東部は不漁、南洋北部はマーシヤル附近が好漁、南部では160°E 以東の海域が好漁、ソロモン、ニユーカレドニア、ニユージーランドの3海区はともに低く、バンダ•フロレス海区は不漁となりつつあるようであるがやや好漁、小スンダ•チモール海区も不漁、ジヤワ沿海10°S線附近は好漁、濠洲西方海区北西部は低く、中部印度洋北西部、アラビア海区南部は好漁、西部印度洋海区では北西部がやや好漁である。

(ビンナガ)

0—15°S, 140—120°W の海区は不漁となり、アルキペラゴ海区北西部も好漁、30—40°N, 180—140°W の海区西部は好漁となつたがミツドウエー海区は不漁である。0—15°S, 160—140°W の海区北西部は不漁、タヒチ海区とサモア海区は好漁が得られトンガ海区は低減期で低率、チヤタム海区はやや好漁、35—40°N, 150°E—180° の海区東側はやや高く、30—35°N, 150°E—180°の海区東方は好漁であつた。ソロモン海区5—10°S, 150—160°E の海域においては不漁、同海区10—15°Sでは150°E 以東が好漁である。ニユーカレドニア海区も150°E 以東が高く、ニユージーランド海区北西部は低い小スンダ•チモール海区は不漁、ジヤワ沿海および濠洲西方海区北西部は好漁となつた。中部印度洋海区北西部は極めて低く、アラビア海区の赤道北側と西部印度洋海区北西部も不漁であり、西部印度洋海区のロドリゲス島南方は高率であつた。大西洋漁場では、アマゾン海区の北部でやや好漁が得られた。

(インドマグロ)

チヤタム海区は好漁、小スンダ•チモール海区も高率であるがジヤワ沿海は低率である。

(クロカワ、シロカワ)

クロカワは、0—20°N, 140—120°W の海区でやや好漁、ガラパゴス海区南西部は不漁、0—15°S, 140—120°W の海区は低いが、アルキペラゴ海区は比較的好漁となつたハワイ南東海区 5°N 以北は好漁、同南西海区 5°N 以北以南は好漁後期で以南は低い。0—15°S, 160—140°W の海区はまだ不漁で、タヒチ、サモア、トンガ3海区も低率であつた。南洋北部の160°E 以東では一般にやや好漁、南洋南部も好漁である。ソロモン海区においては、5—10°S, 10—15°Sとも160°E附近で好漁、ニユーカレドニア海区は低く、バンダフロレス海区はやや高率、小スンダ•チモール海区、ジヤワ沿海においては低い。濠洲西方海区も好漁ではない。中部印度洋海区北西部は低調で、アラビア海区と西部印度洋海区も不漁であつた。大西洋漁場では、アマゾン海区で僅か漁獲がみられた。

シロカワは、ニユーカレドニア海区北西部でやや漁獲があり、バンダ•フロレス海

区は不漁、小スンダ・チモール海区は好漁、ジヤワ沿海海区においては好漁が続き、濠洲西方海区北西部は不漁となつている。

（マカジキ、メカジキ）

ガラパゴスとアルキペラゴ両海区は好漁で、30—40°N, 180—140°の海区は南部160°E以東が好漁、ミッドウエー海区北部もやや好漁で、タヒチ海区は高率、トンガ海区南西部はアルキペラゴ海区程度の好漁である。35—40°N, 150°E—180° の海区では西方が高く、30—35°N, 150°E—180° の海区でも西方が好漁、南海海区南西部も高率であつた。ニユーカレドニア海区のマカジキは西側で高く、ニユージーランド海区では北西部でやや高率、小スンダ・チモール海区では極めて高率、ジヤワ沿海、濠洲西方海区も好漁で、中部印度洋海区北西部、アラビア海区南部、西部印度洋北西部においてもそれぞれ好漁であつた。

メカジキは、40—45°N, 150°E—180°の海区で高率、35—40°N, 150°E—180°の海区中部、30—35°N, 150°E—180°の海区東部もやや好漁であつた。

3 各海区の漁況と海況

A. 赤道以北140°W以東の漁場

（0—20°N, 140—120°Wの海区）

この漁場においては、9月と同様に 0—20°N, 140—120°W の海区南西部の 2 隻を調査したにとどまつている。

（キ　ハ　ダ）

初夏以來の好漁から 9 月は減少をみせたが、10月には海区南西部海域の 0—5°N, 140°W附近で増加して1.92となつた。この海域のキハダは、冬季に向つて不漁となるようで、11月には低率となろう。

（メバチ、ビンナガ）

この海域では、昨年と同じく 9 月から減少過程に入り始めて、10月は1.00と低率である。11月も不漁が続くものと思われる。9月に 0°, 135°E 附近で好漁を示したビンナガは、この漁場では全くみられなかつた。

（ク　ロ　カ　ワ）

クロカワは盛漁期にあり、7, 8, 9月と同様に赤道に近い海域は低く、5°N附近が0.55と好漁、11月もなお好漁であろう。

B. 赤道以南 140°W 以東の漁場

（ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区、アルキペラゴ海区）

ガラパゴス海区南西部海域の調査船は 9 月に激増したが、10月には大型船 2 隻に減少し、0—15°S, 140—120°W の海区では、マーケサス北東方から海区北東部にかけて 4 隻、アルキペラゴ海区北西部では 9月と同じく 2 隻の大型船が調査された。

(キハダ)

ガラパゴス南西部では6月から釣獲率の増減が甚だしく、10月は9月の低率から再び増加して2.40の好漁となつた。次第に減少して不漁期となろう。0—15°S, 140—120°Wの海区においては、1.05を示してこの海区としては低率、アルキペラゴ海区北西部は9月から激減して0.54の不漁となつた。

ガラパゴス、0—15°S, 140—120°Wの両海区は従来に変らず大型で、前者は151—160cm, 後者は141—150cmにモードがみられ、アルキペラゴ海区のモードは後者と同様である。

(メバチ)

ガラパゴス海区のメバチは、8月2.69を最低率として上昇過程に入り、次第に増加している。0—15°S, 140—120°Wの海区は、7月の高率以後10月も好漁で2.86, アルキペラゴの釣獲率0.57は9月とほとんど同率で、この海区としては好漁である。

体長組成をみると、ガラパゴス海区においては121—130cmと141—150cm, 0—15°S 140—120°Wの海区では151—160cmと131—140cmとにそれぞれ第1, 第2, モードがあり、またアルキペラゴ海区では131—140cmに山がみられ、従來の傾向に比較して小型化がめだつている。

(ビンナガ)

ガラパゴス海区と0—15°S, 140—120°Wの海区では低率、アルキペラゴ海区では9月のやや好漁程度の率から増加して1.50, 高率期に入るものと思われる。

(クロカワ)

ガラパゴス海区においては9月から不漁、0—15°S, 140—120°Wの海区も不漁で0.13であるが、アルキペラゴ海区は盛漁期に入つて1.06とやや好漁、12月、1月まで上昇を続ける見込である。

ガラパゴス海区のクロカワは大型魚が比較的少くなり、10月は201—220cmの体長範囲のものが34.4%, 0—15°S, 140—120°Wの海区では191—210cmのものが36.8%, また、アルキペラゴ海区では181—190cmのものが32.5%を占めて中型魚が多い。

(マカジキ)

ガラパゴス海区のマカジキは0.20で好漁、アルキペラゴ海区は9月よりさらに増加して0.26を示し、この海区としては好漁であつた。

体長組成をみると、ガラパゴス海区においては、191—200cmと151—160cmに第1第2モードがあり、0—15°S, 140—120°Wの海区とアルキペラゴ海区では161—170cmにモードがみられ、他海区に比較して大型が多く、特にガラパゴス海区では大型であつた。

C. 赤道以北180—140°Wの漁場

(30—40°N, 180—140°Wの海区、ハワイ南東海区5°N以北および以南、
ミツドウエー海区、ハワイ南西海区5°N以北および以南)

この漁場の調査船隻数は、9月よりやや減少して40となり、30—40°N, 180—140°Wの海区で19隻が調査された。同海区では、180—170°Wの海域南寄りで10隻、他の9隻は160—140°Wの海域の30°N線北側で操業している。ハワイ南東海区5°N以北では5°N線北側の150°E附近で1隻、5°N以南では東部で4隻、中部で1隻、ミッドウエー海区では30°N線南側で2隻、ハワイ南西海区5°N以北では5—10°N, 180—160°Wに12隻が広く分散し、5°N以南では中部で1隻が操業している。

（キハダ）

30—40°N, 180—140°Wの海区、ミッドウエー海区は周年不漁、ハワイ南東海区は好漁期を終つて低率となつたが、5°N以南では1.57で以北よりはるかに高い。ハワイ南西海区も不漁期に入つたようで、5°N以南では1.75を示し、この海域としては低率5°N以北は9月から不漁期となつている。

ハワイ南東海区5°N以南における魚体は、7月の5°N以北と同様に大型で、141—160cmのものが55.8%を占めている。同南西海区5°N以北では、101—120cmにモードがあつてやや小型である。

（メバチ）

30—40°N, 180—140°Wの海区は中部から東部で好漁、160—155°Wの海域は2.62, 150°E附近は2.12, 145—140°Wの海域では2.73を示して9月より増加している。180—170°Wでは、9月とほとんど変らず0.77と低率である。ハワイ南東海区の5°N以南では、9月の高率から急減して1.34, 5°N以北も減少して0.79, いづれも好漁期となつている。ミッドウエー海区北部は好漁期に入り、9月より上昇して180—170°Wは2.11 170—160°Wは1.67と西方がやや高い。11, 12月と増加が続くであろう。ハワイ南西海区5°N以北のメバチも不漁期で10月は1.74, この海区としては高率といえない。この海域も次第に増加が見込まれている。同海区5°N以南では、7月から減少が続いて9月0.66となつたが、10月は恢復して1.01を示しやや好漁、漸次低率となろう。ハワイ南東、南西海区とも漁場の東西位置による釣獲率の差は甚だしくない。

30—40°N, 180—140°Wの海区の体長組成をみると、141—150cmに第1モード、121—130cmに第2モードがあるが大型、ハワイ南東海区5°N以南では161—170cmのものが17.9%を占めているほか、141—150cmと121—130cmとにそれぞれ15.0%がみられて、161cm以上のものが41.5%に達している。ミッドウエー海区は151—160cmにモードがあつて大型、ハワイ南西海区5°N以北では、111—120cmに26.5%があり、従来に比して大きな変化なく北方海区より小型である。

（ビンナガ）

30—40°N, 180—140°Wの海区180—170°Wの海域中部では、9月から好漁期に入つて0.69, 10月はさらに上昇して1.40を示しこの海区としては高率である。

この海区におけるビンナガの魚体は他海区より大型で、101—110cmに58.9%のモードがみられた。

（クロカワ、マカジキ）

クロカワは、ハワイ南東海区5°N以北で好漁0.70となつて盛漁期にあり、5°N以南の海域は好漁期を過ぎて0.19と低下した。ハワイ南西海区5°N以北では、なお好漁後期にあり0.43, 5°N以南では好漁期を過ぎて0.20を示し、去年より早く不漁期に入つた。

マカジキは、30—40°N, 180—140°Wの海区東部30°N, 140°Wの海域で好漁を示して0.35, 30°N, 160°W附近は0.21とやや低く、180—170°Wの海域は0.08とさらに不漁で各海域とも9月より減少している。ミッドウエー海区北部のマカジキも好漁期であり170°Wの東側は0.23, 西側は0.15を示して、やはり東寄りに高率の傾向を示している。

30—40°N, 180—140°Wの海区においては9月から中型魚がやや増加した傾向がうかがわれ、ハワイ南東海区5°以北では171—180cmに26.9%, 同海区5°N以南では181—190cmに16.7%の体長組成の山があつてやや大型となり、ミッドウエー海区のクロカワは従来と同様にこの漁場の南方海区より大型で、10月は211—230cmの体長範囲のものが42.8%に達していた。ハワイ南西海区5°N以北では、9月と同じく161—170cmに第1モードがみられるが、第2モードは131—140cmから130cm以下にうつつて、おおむね従来と同形である。

マカジキは、30—40°N, 180—140°Wの海区においては131--140cmに30.1%がありミッドウエー海区では121—130cmに46.2%があつて大きな変化なく、ハワイ南東海区5°N以北と南西海区5°N以北では141—150cmにモードがあつて小型である。である。

D. 赤道以南180--140°Wの漁場

（0—15°S, 160—140°Wの海区、
タヒチ海区、サモア海区、トンガ海区、チヤタム海区）

この漁場における10月の調査船は、トンガ海区とチヤタム海区で9月より増加したため総計12隻となつている。0—15°S, 160—140°Wの海区では北西部で1隻, タヒチ海区にてはクック諸島北東方の中型船1隻、サモア海区ではサモア諸島北東方の海区南部で1隻、トンガ海区トンガ諸島南方で4隻、さらにチヤタム海区北西部、ニュージーランド島の東方海域で5隻が調査された。操業位置の詳細および海流、水温については漁場圖を参照されたい。

（キハダ）

0—15°S, 160—140°Wの海区南部は、9月の0.53の低率であつたが、10月には北西部で3.00の高率が得られている。冬に向うに従つて次第に減少するであろう、タヒチ海区北西部は好漁期にあつて1.43, サモア諸島附近は低率期で極めて不漁、トンガ諸島南方では好漁の盛期にあり、0.80を示して最近のこの海区としては好漁である。

体長組成をみると、タヒチ海区においては131—140cmに第1モード、91—100cmに第2モードがみられて、141—150cmにモードのみられた昨年冬より小型であるが、

トンガ海区では、141—150cmに41.3%があつて赤道以北140°W以東の漁場と同様に大型であつた。

（メバチ）

0—15°S, 160—140°Wの海区では、南部における9月の低率と同じく、10月も北西部で0.19と不漁である。タヒチ海区北西部も不漁となつて0.07の低率であつた。サモア海区でも好漁期を終つて北西部で0.23と低くなり、トンガ海区は8月0.04の低率から僅かづつ増加して、10月は0.37を示している。11,12月にはさらに釣獲率の増加をみせるかも知れない。チヤタム海区のメバチは周年不漁、10月も0.01を示したに過ぎない。

体長組成をみると、トンガ海区におけるメバチは141—150cmに33.3%がみられ、大型のものが多く釣獲されている。

（ビンナガ）

0—15°S, 160—140°Wの海区では、南部における9月の高率4.03から北西部で0.55に減少した。20°S附近は好漁のようで、タヒチ海区北西部では2.75と高く、北東部における9月の低率から急増している。サモア海区の南部においては特に好漁で、5.39を示して近来にない高率である。トンガ海区南西部は、7月の高率から減少過程に入り、10月には3.01となつた。11, 12月にはさらに低下するであろう。チヤタム海区では好漁前期にあり、9月とほとんど変らず1.12を示して今後は上昇が見込まれる。

（インドマグロ）

チヤタム海区におけるインドマグロは、9月の高率7.54から上昇するものと思われたが、10月にはかえつてやや減少して7.10となつた。

チヤタム海区におけるインドマグロの体長組成をみると、111—120cmの第1モードは9月と変らないが、9月141—150°cmにみられた第2モードが131—140cmにうつつて大型のものが恢復していない。

（クロカワ、マカジキ）

クロカワは、0—15°S, 160—140°Wの海区では好漁期前で、9月から僅かに増加して0.20となり、タヒチ海区においては好漁期であるが、クック諸島北東方では好漁が得られず0.08と極めて低い。サモア海区南部は低率、トンガ海区においては9月と同様に極めて低く、南西部における不漁が続いている。

マカジキは、タヒチ海区において高率0.56を示して9月から急増、トンガ海区でも好漁で9月と同率0.21が得られた。

クロカワの体長組成については、タヒチ海区の7尾を調査したに過ぎない。いづれも大型である。

マカジキの体長組成は、タヒチ海区において161—170cmに42.9%のモードがみられ、9月よりやや大型となつているが昨年のように200cm以上の大型魚がみられない。トンガ海区の体長組成はタヒチ海区と同様で、161—170cmのものが50%以上に達し

ている。

E. 北部太平洋漁場

(40—45°N, 150°E—180°の海区、
35—40°N, 150°E—180°の海区、
30—35°N, 150°E—180°の海区、南海海区)

この漁場における調査船は、10月となつてますます増加して、特に35—40°N, 150°E—180°の海区、30—35°N, 150°E—180°の海区において激増、前者は80隻、後者は24隻を数えている、40—45°N, 150°E—180°の海区では4隻、南海海区では1隻を調査した。詳細な操業位置と漁場における海流、表面については漁場圖を参照のこと。

(キハダ)

この漁場においては、周年キハダの好漁はみられず、35°N線南側、150—160°Eの海域で0.13を示したに過ぎない。

体長組成をみると、35—40°N, 150°E—180°の海区では、121—130cm, 141—150cm 71—80cmにそれぞれ第1, 第2, 第3モードがあり、30—35°N, 150°E—180°の海区では141—150cm, 121—130cm, 61—70cmにそれぞれ第1, 第2, 第3モードがあり、いづれも中型以上のものが50%以上を占めている。

(メバチ)

40°N以北のメバチは不漁、35—40°N, 150°E—180°の海区では盛漁期を終つたようで、8月の高率から低下しつつある。30—35°N, 150°E—180°の海区においても同様であり、35°N線南側で8月から低下しつつある。南海海区南東部では0.09と低い。

40—45°N, 150°E—180°の海区では111—120cmに第1モード、141—150cmに第2モードがあり、その南方の2海区はそれぞれ141—150cmと111—120cmに第1, 第2モードがみられ、9月の35—40°N, 150°E—180°の海区と同形で昨年秋季に比較して大型であつた。

(ビンナガ、クロマグロ)

9月に急増した35—40°N, 170°E—180°の海域のビンナガは、10月となつて激減して1.11を示しているが、この海区としてはやや好漁、30—35°N, 150°E—180°の海区では、170°E—180°の海域において好漁となり、35°N線南側で釣獲率2.52が得られているほか、170°E以西の海域はまだ低率である。

9月に好漁を示した40—45°N, 170°E—180°のクロマグロは、10月となつて減少し0.08を示している。

35—40°N, 150°E—180°の海区と30—35°N, 150°E—180°の海区におけるビンナガ体長組成のモードは、ともに91—100cmにあつてそれぞれ50%以上を占め、従來と同様の傾向である。

(マカジキ)

35—40°N, 150°E—180°の海区におけるマカジキは好漁期であつて、海区平均釣獲

率0.29となり、150—160°Eの海域南部が0.43を示して最も高い。30—35°N, 150°E—180°の海区でも9月に続いて好漁0.29で、150—160°Eの海域が最も高く0.30, 他の2海域はやや低い。南海海区南西部は0.38で好漁であつた。

35—40°N, 150°E—180°の海区と30—35°N, 150°E—180°の海区における体長組成をみると、いづれも131—140cmに42%のモードがあつて、9月よりやや大きいが、昨年秋季より小型である。南海海区においても、121—130cm にモードがみらて小型である。

(メカジキ)

40—45°N, 150°E—180°の海区は9月から好漁の盛期にあり、10月は160—170°Eの海域で1.03の高率、170°E—180°では0.67と低い。35—40°N, 150°E—180°の海区でも160—170°Eが最も高く0.64, 他の2海域は低率である。30—35°N, 150°E—180°の海区はまだ好漁期前と思われ、170°E—180°の海域における0.15の率が最も高い程度である。

40—45°N, 150°E—180°の海区、35—40°N, 150°E—180°の海区における体長組成をみると、両海区とも第1モードは201cm以上にあり、前者は121—130cmに第2モード後者は181—190cmと111—120cmとに第2, 第3, モードがあるがおおむね同形。一昨年と同様に大型魚と中型魚とがあらわれている。30—35°N, 150°E—180° の海区においては、121—130cmと181—190cmにそれぞれ11.1%, 91—100cmと201cm以上にそれぞれ10.7%があつて分散している。

F. 旧南洋庁沿海漁場

(南洋北部170°E以東および以西、南洋南部170°E以東および以西)

南洋北部では、160—170°Eの海域南部のマーシャル附近で3隻、170°E—180°の海域マーシャル附近で1隻と10°N線北側で1隻の総計5隻、南部では170°E以東5隻、以西各海域で11隻、計16隻を調査した。詳細な操業位置と海流については漁場圖参照のこと。

(キハダ)

北部160—170°E南東部のキハダは、9月よりやや低下したが0.72となつてこの海域としては好漁、170°E—180°では0.20と低い。南部諸海域では、140—150°Eでやや上昇したほかは、いづれも減少の傾向にあるようであつて、130—140°Eと150—160°Eの海域においては、従來と同じく5°N以南が以北より高率である。

北部170°E以西、南部各海域においては、いづれも121—130cmにモードがみられ、111—130cm のものが半数あるいは半数以上に達して、おおむね従来と同様の傾向を示している。

(メバチ)

北部の2海域はともに上昇しつつあつて今後好漁に向うようで、南部160°E以西の海域は減少、160°E以東では増加していて好漁である。

体長組成をみると、南洋北部170°E以東および南部170°E以東、以西では131—140cmに組成の山があつて従来と同様、北部170°E以西においては121—130cmに山があつてやや小型である。南部170°E以西では、130—140°Eが他海域よりやや小型の傾向にある。

（クロカワ）

南洋北部160—170°E南東部のクロカワは、9月より僅か減少しているが0.53で高率170°E—180°の南部では9月とほとんど変らず0.36で好漁、南部海域も好漁で9月にやや低かつた西方海域も増加し、0.40—0.70と盛漁期にある。

北部170°E以東と南部170°E以西では141—150cmにともに体長組成の山がみられ、北部170°E以西と南部170°E以東では151—161cmに第1モードがあつて9月の南部170°E以東と同様、130cm以下に第2モードがみられる。

G. ソロモン以南漁場

（ソロモン海区、ニユーカレドニア海区、ニユージーランド海区）

ソロモン海区における10月の調査船は9月より増加して29隻、その大部分は10—15°Sの西部で調査されている。ニユーカレドニア海区においても9月より増加して31隻、そのうち8隻が170E—180°の海域、他は160°E以西で操業している。ニユージーランド海区では、9月から激減して海区北西部の濠洲大陸沿岸で1隻が調査された。10—15°S, 144—150°Eの海域では連日風波高く表面水温は25.9—26.5°C程度。11°S, 150°E附近では26.3°C前後で例年よりやや低く、海流の方向は一定せず流速も微弱であつたが、濠洲大陸沿岸寄りには南流の顕著なもの（2ノット程度）が認められた。（第一成洋丸船長小笠原福男氏、第27琴平丸船長高橋昇氏報告）他海域の海流については漁場圖を参照されたい。

（キハダ）

ソロモン海区におけるキハダは、0—10°S, 150—160°Eのソロモン諸島附近が最も高率、5°S線を中心とした5隻は2.80, 南東部の1隻は3.45と好漁である。前者はこの海区としては高率といえず、例年に比して漁況低調である。（第一成洋丸船長小笠原福男氏報告）10—15°Sの海域ではどの海域も低率であり、150—160°Eが1.93で最も高い。ニユーカレドニア海区でも不漁期にあり、おおむね西寄りに高率となつているニユージーランド海区北西部の1隻は、11.21と著しい高率を得ている。

ソロモン海区およびニユーカレドニア海区における体長組成をみると、前者の0—15°Sの海域では、10月の南洋北部、南部と同じく121—130cmに、また後者では141—150cmにそれぞれモードがみられ、後者では131—150cmのものが54.9%に達してソロモンより大型で、從來に比して大きな変化はみられない。

（メバチ）

ソロモン海区においては、ソロモン諸島北部附近の釣獲率0.49が最も高い程度で不漁。ニユーカレドニア海区では、夏に好漁の得られぬまま低率期に入つたようで、南

東部で漸く0.42が得られている。10月中旬までの10—18°S, 145—150°Eでは生殖巣の未熟なものが多かつたが、下旬に入つて17—20°S, 155—159°Eでは成熟卵を持つたものが多くみられた。（阿洲丸船長本田光一氏報告） ニユージーランド海区のメバチは周年不漁である。

ソロモン海区0—15°Sにおける体長組成は9月と同様で111—120cmにモードがみられ、ニユーカレドニア海区においては9月131—140cmにあつたモードが、141—150cmと121—130cmとに分れて、昨年以來の傾向よりやや大型である。

（ビンナガ、インドマグロ）

ソロモン海区5—10°Sの海域は、全般的に不漁期となつてソロモン諸島北部で0.28 9月の著しい高率5.90から急激に低下している。10—15°Sでは夏から低減過程にあるが、西寄りに低率であつて140—150°E0.26, 150—160°E 2.14, 160—170°E 4.66となつている。ニユーカレドニア海区のビンナガも低下しつつあり、釣獲率4.76を示した9月から大きく減少して10月は2.70となつた。15—20°S, 155°E附近が高く3.65, 海区北西隅が最も低く0.18である。（漁場圖參照） ニユージーランド海区においては既に好漁期であるが、北東部の濠洲大陸沿岸では好漁が得られず0.07と極めて低い。

ニユージーランド海区のインドマグロは、好漁の終期にあつて減少しつつあるものと思われるが、北東部の濠洲大陸沿岸ではほとんど漁獲なく僅かに0.07であつた。

ソロモンおよびニユーカレドニア海区のビンナガの体長組成をみると、ともに91—100cmにモードがあつて9月までの傾向と変らない。

（クロカワ）

ソロモン海区のクロカワは、ソロモン諸島附近で0.21—0.39を示しこの海区としては好漁であつた。（漁場圖參照） 同海区他海域および他海区におけるクロカワは不漁、で、ニユーカレドニア海区ではまだ上昇過程に入らず釣獲率0.09と低い。

体長組成をみると、ソロモン海区0—15°Sの東～中部においては、161—170cmの第1モード、141—150cmの第2モードとも9月と同様で従来に変らず、ニユーカレドニア海区170°E以西の海域では、ソロモンと同じく161—170cmに25.1%のモードがあらわれ、9月以来200cm前後の比較的大型のものが減少している。

（シロカワ、マカジキ）

シロカワは、ソロモン海区10—15°Sの海域西部で0.84が得られて好漁、ニユーカレドニア海区では、一昨年までの高率には達しないが、北西部の濠洲大陸沿岸で0.64と増加して好漁期に入つた。他の海域では不漁である。ソロモン海区南西部のLizard島附近の操業では、島に接近する程小シロが多く漁獲され、卵は既に透明で産卵期前と思われる。（第27琴平丸船長高橋昇氏報告）

マカジキは、ニユーカレドニア海区で好漁期となり、海区南西部で0.54, その北部10—15°S, 150—160°Eの海域で0.27, 海区東部では0.20—0.27の釣獲率を示している。（漁場圖參照） ニユージーランド海区北西部は0.14とやや好漁であつた。

シロカワの体長組成は、ソロモン海区において151—160cmに第1モード、251cm以上、181—190cmに第2,第3モードがある。141—160cmのものが34.4%を占めていた9月よりやや大型が増加している。ニューカレドニア海区においては、251cm以上に20.0%,181—190cmに14.5%があり、従来と同形である。

マカジキの体長組成をみると、ソロモン、ニューカレドニア両海区とも同様の組成で161—170cmにモードがあり、9月と同形であつた。

H. 東部印度洋漁場

(バンダ・フロレス海區、小スンダ・チモール海區、
ジヤワ沿海海區、豪洲西方海區)

バンダ・フロレス海區では10月に入つて4隻が中央部で調査され、小スンダ・チモール海区では9月より半減して海區南西部で5隻、ジヤワ沿海海區は1隻、豪洲西方海區においては海區北西部における3隻を調査した。

漁場の表面水温、海流等については漁場圖参照のこと。

(キハダ)

バンダ・フロレス海區のキハダはやや好漁、海區中央部で1.89が得られ、小スンダチモール海區南西部では低率期と思われ9月に続いて不漁、ジヤワ沿海海區中央部では9月に急減したが、10月は恢復して再び増加、2.09に達して現在は好漁期にあるものと思われる。豪洲西方海區の北西部におけるキハダは、8月の低率から増加を続け、10月は1.99となつて好漁である。冬期に向つて更に上昇が期待される。

バンダ・フロレス海區と小スンダ・チモール海區においては121—130cmに、またジヤワ沿海では111—120cmにそれぞれモードがみられ、従來に比較して大きな変化はない。豪洲西方海區では、調査尾数18尾中10尾が141—150cmのもので大型であつた。

(メバチ)

バンダ・フロレス海區におけるメバチは、1.28を示して最近のこの海區としては好漁。小スンダ・チモール海區の南西部では、9月よりさらに不漁となつて0.19,ジヤワ沿海は好漁期であるにも拘わらず9月は低率であつたが、10月には1.50と増加して盛漁となつた。豪洲西方海区北西部のメバチは、9月を最盛期として減少過程に入つたようで、0.73と低下している。次第に減少が見込まれる。

バンダ・フロレスとジヤワ沿海両海区にあける体長組成のモードは、131—140cmにあつて従来と同形。小スンダ・チモール海区では9月と同じく121—130cmにモードがあつてやや小型である。

(ビンナガ、インドマグロ)

小スンダ・チモール海区のビンナガは、好漁期を過ぎて低率、完全に不漁期に入つて0.27となつた。ジヤワ沿海海区も低減中と思われたが、10月には3.03と急増している。11月には再び低下するであろう、豪洲西方海区の北西部でも、ジヤワ沿海と同様

に釣獲率の急増が見られ、9月1.67から10月3.63と激増した。この高率は次第に低下するであろう。

インドマグロは、小スンダ・チモール海区において盛漁期となり、9月の高率3.98から更に上昇して4.91に達した。11月からは低減過程に入るであろう。ジャワ沿海海区は全く低率0.22となつて、濠洲西方海区北西部はまだ上昇過程に入らず全く不漁である。

小スンダ・チモール海區におけるビンナガの体長組成のモードは、2, 3, 4月と同じく91—100cmの体長範圍にみられて48.8%であつた。

また、同海區におけるインドマグロは、体長組成のモードが151—160cm にあつて2月以来の傾向と変らない。

（クロカワ）

バンダ・フロレス海區は低く0.16であるがこの海區としては好漁、小スンダ・チモール海区のクロカワは9月と同じく低率、ジャワ沿海海区では9月より増加しているが0.11とまだ低く、濠洲西方海区北西部のクロカワも0.19を示してあまり好漁とはいえない。

バンダ・フロレス海區における体長組成は、9月の小スンダ・チモール海區と同じく161—170cmにモードがみられ、小スンダ・チモール海區では171—180cmにうつりジャワ沿海では181—190cmにモーガあつて、両海區とも161—170cmのものが多く前者は60.4%、後者は81.5%に及んでいる。

（シロカワ、マカジキ）

シロカワはバンダ・フロレス海区ではまだ上昇期に至らず低率、小スンダ・チモール海区では9月より増加して0.34と好漁、ジャワ沿海海区では9月から減少しているが、0.39を示して高率である。濠洲西方海区北西部のシロカワは、9月の高率0.45から0.10に低下したが、この附近はまだ好漁期にあつてまだ好漁が続くであろう。

マカジキは、バンダ・フロレス海区では低く、小スンダチモール海区においてはいちじるしい高率1.35が得られている。ジャワ沿海のマカジキは好漁期であるが、0.10と9月よりさらに低く、濠洲西方海区北西部も好漁期であるが10月は0.17を示したに過ぎない。

シロカワの体長組成をみると、バンダ・フロレス，小スンダ・チモール、ジャワ沿海各海区とも141—150cmに第1モード、171—180cmあるいは181—190cmに第2モードがあつて9月と同様である。

バンダ・フロレス、小スンダ・チモール、ジャワ沿海海区におけるマカジキの体長組成をみると、いづれも131—140cmにモードがみられて9月の小スンダ・チモール海区と同形で従来より小型である。

I. 中西部印度洋漁場

（中部印度洋海区、アラビア海区、西部印度洋海区）

8, 9月以来調査されているアラビア海区、西部印度洋海区のほか、中部印度洋海区の北西部で1隻を調査した。アラビア海区では9月までと同様に赤道の北側で2隻、西部印度洋海区では9月と同じ海区南東部の2隻とマダガスカル北方、0—7°S附近の1隻の3隻が操業している。漁場における表面水温、海流については漁場圖参照のこと。

（キハダ）

中部印度洋海区北西部ではやや好漁2.12, アラビア海区南部の赤道附近は春から増加しつつあり、10月は最盛期と思われ5.15の高率に達した。西部印度洋海区南東部では、9月より僅か増加したが低率、北西部では3.73と高くやや好漁である。

西部印度洋海区南東部におけるキハダの魚体は大型で、151—160cmに49.0%のモードがみられた。

（メバチ、ビンナガ）

中部印度洋北西部におけるメバチはやや好漁1.08であり、アラビア海区南部の釣獲率は、9月に低下して1.26となつたが、10月には2.27と再び上昇して高率である。西部印度洋海区においては、南東部では不漁、北西部ではやや好漁0.70が得られた。

ビンナガは西部印度洋海区南東部で8月以來の好漁が續き、9月から僅か低下しているが6.23といちじるしい高率である。同海区北西部では全く漁獲されていない。

（クロカワ、マカジキ）

中部印度洋海区北西部のクロカワは低率0.06, アラビア海区では南部で低率期となり0.11, 西部印度洋海区も低く北西部0.10, 南東部0.06であつたに過ぎない。

マカジキは、中部印度洋海区北西部0.19, アラビア海区南部0.32と後者で高く、西部印度洋海区北西部も0.31と好漁、同海区南東部では0.06の不漁であつた。

クロカワは西部印度洋海区北西部において181cm以上の中、大型魚が多く、180cm以下のものは極めて少くなつている。モードは181—190cmにみられた。

西部印度洋海区のマカジキの体長組成をみると、141—150cmの体長範圍に48.0%のモードがあり、やや小型である。

J. 大西洋漁場

（ギアナ、東北海区、アマゾン海区）

大西洋における10月の調査船は、9月と同じ海域で操業を続けたギアナ東北海区の1隻とアマゾン海区北部中央の1隻、計2隻にとどまつて、前者の漁場水温と両海区の海流および体長組成については調査できなかつた。

（キハダ）

ギアナ東北海区におけるキハダは7月, 9月の高率から低下したが、10月は7.67でまだ好漁であり、アマゾン海区においても7.22とほぼ同率の好漁、なお高率が続くであろう。

（メバチ）

ギアナ東北海区のメバチは、春季以来大きな変動なく10月も0.16と低く、アマゾン海区も0.12とほぼ同様で低い。これらの海区では好漁は見込めないであろう。

（ビンナガ）

ギアナ東北海区では9月に0.35と低下したが、10月には0.94とやや増加し、アマゾン海区においては2.08を示して、この附近のビンナガとしては高率である。

（クロカワ）

クロカワは低率でギアナ東北海区では全く漁獲なく、僅かにアマゾン海区において0.36を示している。

この資料は、南海区水研、神奈川県水試が依託調査船274隻より編集し、これを統計的に分離したものである。

鮪漁船の青酸ガス燻蒸•殺虫•消毒には東洋燻蒸の連絡所を新設しましたから御用命下さい

三崎連絡所　三浦市三崎町花暮158（県漁連隣）電話3548

石田商店
石田芳正

東洋燻蒸株式会社

本社　東京都中央区京橋三ノ一　電話（56）3982番（通直）
横浜支社　横浜市神奈川区榮町二ノ二七　電話（44）3334番

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数	ま	
									きはだ	めばち
0—20N 140—120W	1—6N 141—137W	2	0	25.9 28.3		24	9600	44400	851 1.92	445 1.00
ガラパゴス	7—9S 120—109W	2	1	23.5 25.7		50	20660	85610	2057 2.40	2489 2.91
0—15S 140—120W	5—7S 135—120W	4	1	24.4 26.0		83	35304	153096	1602 1.05	4379 2.86
アルキペラゴ	18—21S 141—133W	2	2	24.2 25.9		56	24205	96820	523 0.54	552 0.57
30—40N 180—140W	29—39N 180—141W	19	3	19.2 25.9		242	87575	387034	14 0.00	7092 1.83
ハワイ南東 (5°N以北)	6—8N 157—145W	1	1	28.9 29.5		16	6928	33040	129 0.39	260 0.79
ハワイ南東 (5°N以南)	0—7N 154—140W	5	2	25.9 29.5		67	26683	129051	2024 1.57	1729 1.34
ミッドウエー	29—30N 177—165W	2	2	23.6 25.5		28	10050	40200	9 0.02	784 1.95
ハワイ南西 (5°N以北)	4—11N 180—159W	12	7	28.1 30.1		166	60820	257545	1045 0.41	4479 1.74
ハワイ南西 (5°N以南)	3—5N 169—167W	1	0	27.4 29.4		11	4120	16480	289 1.75	167 1.01
0—15S 160—140W	0—6S 161—151W	1	0	26.8 28.2		21	5880	29400	882 3.00	57 0.19
タヒチ	17—22S 157—154W	1	1	24.6 26.3		20	8291	41455	594 1.43	30 0.07
サモア	10—12S 170—167W	1	0	28.6 29.0		12	4320	21600	25 0.12	49 0.23
トンガ	22—28S 180—172W	4	1	19.6 24.0		78	25965	149230	1189 0.80	546 0.37
チヤタム	35—39S 178E—178W	5	5	14.4 17.4		83	28530	125403		11 0.01
40—45N 150E—180	38—42N 166—173E	4	2	17.4 20.5		97	25453	152718	2 0.00	71 0.05
35—40N 150E—180	34—41N 149E—180	80	36	16.8 25.9		1307	363544	1692180	949 0.06	12460 0.74
30—35N 150E—180	32—36N 152—174E	24	13	20.5 25.2		328	82999	392384	482 0.12	2937 0.75
南海	31—32N 137—139E	1	1	24.5 25.0		15	1950	11700	6 0.05	11 0.09
南洋北部 (170°E以東)	10—13N 168—178E	2	2	28.5 29.5		14	5204	20816	42 0.20	254 1.22
南洋北部 (170°E以西)	10—13N 164—168E	3	2	28.8 29.7		40	13990	72480	521 0.72	957 1.32
南洋南部 (170°E以東)	2—10N 170—178E	5	4	28.4 30.2		58	19408	82663	747 0.90	1363 1.65

（1958年10月操業分）

（別表 1 ） A

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	備考
びんなが	くろ鮪	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
			161 0.36	11 0.02	9 0.02	18 0.04			16 0.04	112 0.25	1623 3.66	
9 0.01			58 0.07	10 0.01	167 0.20	32 0.04			957 1.12	217 0.25	5996 7.00	
160 0.10			200 0.13	30 0.02	129 0.08	38 0.02	9 0.01	448 0.29	63 0.04		7058	
1449 1.50		1 0.00	1027 1.06	12 0.01	256 0.26	14 0.01	9 0.01		211 0.22		4054	
2076 0.54	2 0.00		140 0.04	1 0.00	1050 0.27	57 0.01	4 0.00	16 0.00	211 0.05	383 0.10	11046 2.85	
			232 0.70		8 0.02	5 0.02	4 0.01				638	
	1 0.00		242 0.19	12 0.01	23 0.02	21 0.02	5 0.00		150 0.12	290 0.22	4497 3.48	
4 0.01			23 0.06		72 0.18	17 0.04			20 0.05	55 0.14	984 2.45	
24 0.01	1 0.00		1102 0.43	10 0.00	56 0.02	29 0.01	116 0.05	318 0.12	106 0.04	122 0.05	7408 2.88	
1 0.01			33 0.20	1 0.01	1 0.01	3 0.02	4 0.02		5 0.03	49 0.30	553 3.36	
162 0.55			58 0.20	1 0.00	6 0.02		1 0.00	17 0.06	5 0.02	127 0.43	1316 4.48	
1139 2.75			34 0.08	19 0.05	233 0.56	13 0.03	3 0.01				2065	
1164 5.39			23 0.11		3 0.01	1 0.00					1265	
4492 3.01			30 0.02	11 0.01	312 0.21	61 0.04			282 0.19	595 0.40	7518 5.04	
1410 1.12		8904 7.10			1 0.00	16 0.01			20 0.02		10362	
172 0.11	71 0.05		2 0.00		6 0.00	1421 0.93			47 0.03	916 0.60	2708 1.77	
18809 1.11	56 0.00		268 0.02	34 0.00	4840 0.29	2679 0.16	11 0.00	142 0.01	1226 0.07	6363 0.38	47837 2.83	
1081 0.28	4 0.00		87 0.02	1 0.00	1119 0.29	445 0.11		2 0.00	224 0.06	875 0.22	7257 1.85	
5 0.04			2 0.02		45 0.38	5 0.04			6 0.05	88 0.75	168 1.44	
28 0.13			75 0.36		6 0.03	1 0.00	12 0.06		37 0.18	160 0.77	615 2.95	
8 0.01			387 0.53	7 0.01	14 0.02	3 0.00	48 0.07		37 0.05	41 0.06	2023 2.79	
13 0.02			576 0.70		27 0.03	30 0.04	48 0.06	5 0.01	135 0.16	224 0.27	3168 3.83	

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数	ま	
									きはだ	めばち
南洋南部 (170°E以西)	1— 10N 133—170E	11	10	28.2 30.0		175	61933	293943	5473 1.86	2943 1.00
ソロモン	0— 16S 144—163E	29	17	25.3 30.6		495	182096	830343	16624 2.00	1734 0.21
ニューカレドニア	14— 30S 146—179E	31	15	17.6 26.9		524	176497	912139	11155 1.22	1509 0.17
ニュージーランド	29— 33S 153—155E	1	0	21.1 23.8		15	4680	23400	2623 11.21	50 0.21
バンダフロレス	3— 7S 123—134E	4	3	26.2 29.8		68	23847	106455	2012 1.89	1358 1.28
小スンダチモール	12— 15S 116—122E	5	2	26.3 29.5		71	26094	113074	477 0.42	214 0.19
ジャワ	8— 12S 105—110E	1	1	26.9 28.5		23	9765	39060	818 2.09	585 1.50
濠洲西方	10— 17S 97—105E	3	1	24.1 27.9		39	16249	78450	1558 1.99	571 0.73
中部印度洋	5— 7S 70— 73E	1	0	27.6 28.2		6	2380	9520	202 2.12	103 1.08
アラビア	1— 3N 52— 64E	2	0	26.7 28.9		20	8860	35440	1826 5.15	803 2.27
西部印度洋	0— 27S 41— 64E	3	1	19.4 27.0		81	35420	165280	2950 1.98	345 0.21
ギアナ東北	4— 11N 52— 43W	1	0			20	9215	36860	2828 7.67	59 0.16
アマゾン	2— 5N 39— 38W	1	0	27.4 27.7		12	2595	12975	937 7.22	15 0.12
合計	35	274	136			4365	1431110	6692244	63465 0.95	51411 0.77

ぐ	ろ		か	じ	き			かつお	雑	さめ	計	備考
びんなが	くろ鮪	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
12 0.00			1528 0.52	26 0.01	30 0.01	35 0.01	226 0.08	114 0.04	239 0.08	537 0.18	11163 3.80	
13085 1.58			1518 0.18	1694 0.20	167 0.02	110 0.01	1234 0.15	85 0.01	361 0.04	596 0.07	37208 4.48	
24600 2.70		1 0.00	788 0.09	1058 0.12	2826 0.31	329 0.04	177 0.02	107 0.01	1610 0.18	1116 0.12	45276 4.96	
17 0.07			2 0.01		33 0.14	1 0.00					2726	
			170 0.16	97 0.09	11 0.01	23 0.02	137 0.13	5 0.00	16 0.02	65 0.06	3894 3.66	
307 0.27		5547 4.91	105 0.09	383 0.34	1532 1.35	41 0.04	4	5	111 0.10	53 0.05	8779 7.76	
1184 3.03		85 0.22	43 0.11	152 0.39	38 0.10	4 0.01	18 0.05	12 0.03	62 0.16	267 0.68	3268 8.37	
2844 3.63			151 0.19	76 0.10	134 0.17	17 0.02	37 0.05		85 0.11	67 0.09	5540 7.06	
1 0.01			6 0.06	6 0.06	18 0.19	1 0.01	9 0.09		5 0.05		351	
			39 0.11	40 0.11	115 0.32	11 0.03	10 0.03		3 0.01	111 0.31	2958 8.35	
7786 4.71			111 0.07	60 0.04	192 0.12	68 0.04	27 0.02		199 0.12	274 0.17	12012 7.27	
348 0.94		1 0.00				8 0.02					3244	
270 2.08		2 0.02	47 0.36		8 0.06		72 0.55		125 0.96		1476 11.38	
82660 1.24	135 0.00	14541 0.22	9268 0.14	3752 0.06	13487 0.20	5557 0.08	2225 0.03	1276 0.02	6574	13703	268054	

月別、漁場別、鮪類体長組成表 (1958年10月操業分)

(別 表 2)

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm 以上		計	漁獲尾数
き は	1	ガラパゴス	7— 9S 120—109W	34										2 3.0	13 19.7	35 53.0	11 16.7	5 7.6		66 100	1064
	1	0— 15S 140—120W	5— 7S 135—124W	36								1 1.6	1 1.6	7 10.9	39 60.9	13 20.3	2 3.1	1 1.6		64 100	378
	2	アルキペラゴ	18— 21S 141—132W	56						1 0.9		2 1.8		8 7.1	52 46.0	37 32.7	13 11.5			113 100	523
	2	30— 40N 180—140W	31— 33N 157—141W	34			1 33.3										1 33.3	1 33.3		3 100	4
	2	ハワイ南東 (5°N 以南)	2— 7N 150—140W	32							4 2.2	14 7.7	12 6.6	37 20.2	51 27.9	51 27.9	11 6.0	3 1.6		183 100	1334
	4	ハワイ南西 (5°N 以北)	5— 8N 180—159W	80			5 1.4	16 4.5	12 3.4	25 7.0	92 25.9	92 25.9	62 17.5	35 9.9	14 3.9	2 0.6				335 100	574
	1	タヒチ	17— 22S 157—154W	20					1 0.8	17 13.3	11 8.6	12 9.4	17 13.3	32 25.0	28 21.9	10 7.8				128 100	594
	1	トンガ	24— 28S 176—172W	28						1 1.3		3 4.0	7 9.3	14 18.7	31 41.3	17 22.7	2 2.7			75 100	461
	19	35— 40N 150—180E	34— 39N 149E—180	323			10 4.5	31 14.1	11 5.0	4 1.8	1 0.5	15 6.8	64 29.1	31 14.1	33 15.0	16 7.3	4 1.8			220 100	272
	10	30— 35N 150—180E	33— 36N 152—164E	137			15 6.4	8 3.4				8 3.4	50 21.5	27 11.6	60 25.8	51 21.9	12 5.2	2 0.9		233 100	220
	1	南海	31— 32N 137—139E	15							2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7						6 100	6
	1	南洋北部 (170°E以東)	10— 13N 168—175E	8								5 62.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5					8 100	20
	2	南洋北部 (170°E以西)	10— 11N 164—167E	30					1 0.5	1 0.5	3 1.4	58 27.2	111 52.1	33 15.5	5 2.3	1 0.5				213 100	437
	3	南洋南部 (170°E以東)	2— 8N 170—176E	42					2 0.4	1 0.2	28 5.4	183 35.3	222 42.9	74 14.3	7 1.4		1 0.2			518 100	659
	10	南洋南部 (170°E以西)	3— 10N 133—170E	163			2 0.1	2 0.1	3 0.2	21 1.4	243 16.0	438 28.8	549 36.0	226 14.8	31 2.0	3 0.2	1 0.1	4 0.3		1523 100	5198

50以 51 61 71 81 91 101 111 121 13

だ	14	ソロモン	0—16S 144—163E	315	5 0.2	1	3 0.1	38 1.2	150 4.7	228 7.2	522 16.4	535 16.9	604 19.0	567 17.9	431 13.6	76 2.4	11 0.3	3 0.1		3174 100	11439
	13	ニューカレドニア	14—29S 146—168E	250			1	6 0.3	30 1.3	49 2.2	213 9.4	269 11.9	335 14.8	574 25.3	670 29.6	101 4.5	18 0.8			2266 100	6049
	3	バンダフロレス	3—7S 124—134E	61			4 0.6	9 1.4	5 0.8	7 1.1	22 3.5	145 22.9	216 34.1	158 25.0	66 10.4	1 0.2				633 100	1738
	2	小スンダチモール	12—15S 116—122E	39							12 4.7	47 18.6	83 32.8	62 24.5	42 16.6	5 2.0	1 0.4	1 0.4		253 100	255
	1	ジャワ	8—12S 105—110E	23							4 9.5	21 50.0	8 19.0	7 16.7	1 2.4	1 2.4				42 100	818
	1	濠洲西方	11—16S 98—99E	10									2 11.1	4 22.2	10 55.6	1 5.6	1 5.6			18 100	355
	1	西部印度洋	23—27S 51—64E	35								1 1.0		2 1.9	45 43.3	51 49.0	5 4.8			104 100	791

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	60 cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上		計	漁獲尾数
め	1	ガラパゴス	7—9S 120—109W	34					3 0.9	14 4.0	20 5.7	68 19.4	50 14.2	61 17.4	56 16.0	32 9.1	30 8.5	17 4.8		351 100	1810
	1	0—15S 140—120W	5—7S 135—124W	36					4 1.0	7 1.8	31 7.8	33 8.3	73 18.4	67 16.9	74 18.7	41 10.4	43 10.9	23 5.8		396 100	1357
	2	アルキペラゴ	18—21S 141—132W	56						2 1.0	21 10.0	29 13.9	51 24.4	49 23.4	35 16.7	16 7.7	5 2.4	1 0.5		209 100	552
	5	30—40N 180—140W	31—33N 157—141W	98		1 0.1	4 0.3	69 5.1	67 5.0	39 2.9	123 9.1	167 12.4	98 7.3	398 29.5	307 22.7	50 3.7	25 1.9	3 0.2		1351 100	4219
	1	ハワイ南東 (5°N以南)	2—5N 147—140W	12					7 5.0	2 1.4	11 7.9	21 15.0	12 8.6	21 15.0	8 5.7	25 17.9	13 9.3	20 14.3		140 100	309
	1	ミッドウエー	29—30N 177—168W	18		1 0.5	1 0.5	8 3.8	2 1.0	1 0.5	4 1.9		9 4.3	44 21.1	106 50.7	18 8.6	14 6.7	1 0.5		209 100	546
	6	ハワイ南西 (5°N以北)	5—8N 180—159W	122		3 0.3			16 1.8	73 8.2	236 26.5	220 24.7	172 19.3	95 10.7	53 5.9	14 1.6	5 0.6	4 0.4		891 100	3723
	1	タヒチ	17—22S 157—154W	20					1 10.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0		1 10.0	1 10.0				10 100	30
	1	トンガ	24—28S 176—172W	28						1 2.2			6 13.3	15 33.3	13 28.9	7 15.6	3 6.7			45 100	242

	1	40— 45N 150E—180	38— 42N 166—169E	26					1 2.8	2 5.5	12 33.3	3 8.3	4 11.1	9 25.0	3 8.3	2 5.5				36 100	42
	32	35— 40N 150E—180	34— 40N 149E—180	553		14 0.3	19 0.4	203 4.8	202 4.8	343 8.1	726 17.1	164 3.9	824 19.4	1057 24.9	341 8.0	168 4.0	119 2.8	71 1.7		4251 100	6061
ば	10	30— 35N 150E—180	33— 36N 152—164E	150			1 0.1	1 0.1	37 4.3	45 5.3	129 15.1	37 4.3	207 24.2	249 29.1	89 10.4	32 3.7	17 2.0	12 1.4		856 100	1298
	1	南海	31— 32N 137—139E	15					1 11.1					5 55.6	1 11.1	2 22.2				9 100	11
	1	南洋北部 (170°E以東)	10— 13N 168—175E	8					3 5.4	5 8.9	8 14.3	14 25.0	18 32.1	5 8.9	3 5.4					56 100	112
	2	南洋北部 (170°E以西)	10— 11N 164—167E	30					12 3.5	34 9.9	80 23.3	102 29.7	74 21.6	30 8.7	9 2.6		1 0.3	1 0.3		343 100	846
	3	南洋南部 (170°E以東)	2— 8N/ 170—176E	42					30 5.2	48 8.3	104 18.1	152 26.4	154 26.8	58 10.1	20 3.5	5 0.9	3 0.5	1 0.2		575 100	1036
	10	南洋南部 (170°E以西)	3— 10S 133—170E	163		1 0.1		3 0.3	60 5.3	72 6.3	223 19.6	259 22.7	312 27.4	131 11.5	55 4.8	13 1.1	6 0.5	4 0.4		1139 100	2830
ち	14	ソロモン	0— 16S 144—163E	297	2 0.2	3 0.3	11 1.2	29 3.1	84 9.0	122 13.0	214 22.9	205 21.9	162 17.3	51 5.4	40 4.3	8 0.9	5 0.5			936 100	1325
	11	ニュー カレドニア	14— 29S 146—168E	226			7 1.7	14 3.3	16 3.8	26 6.2	59 14.0	79 18.7	60 14.2	81 19.2	62 14.7	16 3.8	2 0.5			422 100	564
	3	バンダ フロレス	3— 7S 124—134E	61		6 1.3	1 0.2		7 1.5	15 3.2	26 5.6	64 13.8	188 40.5	116 25.0	37 8.0	2 0.4	2 0.4			464 100	1099
	2	小スンダ チモール	12— 15S 116—122E	39					5 6.7	5 6.7	25 33.3	32 42.7	7 9.3	1 1.3						75 100	80
	1	ジャワ	8— 12S 105—110E	23					3 2.9	8 7.8	10 9.7	15 14.6	38 36.9	22 21.4	4 3.9	3 2.9				103 100	585
	1	濠洲西方	11— 16S 98— 99E	10							1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3				7 100	178
	1	西部印度洋	23— 27S 51— 64E	35						2 20.0	1 10.0		6 60.0	1 10.0						10 100	23
魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	40cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121cm以上						計	漁獲尾数
	3	30— 40N 180—140W	30— 39N 178—141W	52						3 3.2	21 22.1	56 58.9	15 15.8							95 100	352

びんなが	2	40—45N 150E—180	38—42N 166—173E	53						8 66.7	4 33.3									12 100	86
	23	35—40N 150E—180	34—39N 149E—180	384						155 10.2	784 51.5	487 32.0	96 6.3							1522 100	7292
	7	30—35N 150E—180	34—36N 152—164E	102						31 27.4	59 52.2	17 15.0	6 5.3							113 100	238
	1	南洋北部 (170°E以東)	10—12N 176—178E	6							5 33.3	9 60.0	1 6.7							15 100	12 (17
	1	南洋南部 (170°E以西)	9—10N 166—168E	19								2 100.0								2 100	2
	10	ソロモン	0—16S 144—163E	216					4 0.5	329 39.4	471 56.3	32 3.8								836 100	5449
	5	ニュー カレドニア	14—27S 147—168E	101				1 0.2	3 0.5	79 14.4	344 62.9	112 20.5	8 1.5							547 100	6339
	2	小スンダ チモール	12—15S 116—122E	39					2 2.4	11 13.4	40 48.8	24 29.3	5 6.1							82 100	134

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80 cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—171	171—180	181—190	191—200	201 cm以上		計	漁獲尾数
いんどまぐろ	4	チャタム	35—39S 178E—178W	70		4 0.2	39 2.1	392 21.0	494 26.5	231 12.4	291 15.6	265 14.2	111 5.9	30 1.6	7 0.4	3 0.2				1867 100	7687
	2	小スンダ チモール	12—15S 116—122E	39					2 0.3		9 1.2	163 21.1	386 49.9	178 23.0	35 4.5	1 0.1				774 100	2704
	1	ジャワ	8—12S 105—110E	23								7 21.9	8 2.5	12 37.5	2 6.3	3 9.4				32 100	85

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251 cm以上		計	漁獲尾数
く	1	ガラパゴス	7—9S 120—109W	34					2 6.3	1 3.1	1 3.1	3 9.4	7 21.9	4 12.5	3 9.4	5 15.6	3 9.4	3 9.4		32 100	36
	1	0—15S 140—120W	5—7S 135—124W	36					3 6.1	5 10.2	7 14.3	9 18.4	9 18.4	4 8.2	4 8.2	2 4.1	2 4.1	4 8.2		49 100	81
	2	アルキ ペラゴ	18—21S 141—132W	56	1 0.3	1 0.3			27 6.8	73 18.4	129 32.5	104 26.2	32 8.1	10 2.5	1 0.3	6 1.5	6 1.5	7 1.8		397 100	1027
	7	30—40N 180—140W	29—35N 180—141W	114				1 1.3	4 5.3		3 4.0	4 5.3	19 25.3	15 20.0	9 12.0	10 13.3	6 8.0	4 5.3		75 100	90

ろ	1	ハワイ南東 (5°N 以北)	6— 8N 157—145W	16		3 2.2	4 3.0	12 9.0	24 17.9	36 26.9	27 20.1	10 7.5	8 6.0	6 4.5	2 1.5	2 1.5				134 100	232
	2	ハワイ南東 (5°N 以南)	2— 7N 150—140W	32		2 2.1	2 2.1	5 5.2	11 11.5	12 12.5	16 16.7	11 11.5	9 9.4	8 8.3	7 7.3	4 4.2	3 3.1	6 6.2		96 100	119
	2	ミッドウエー	29— 30N 177—165W	28								1 4.8	4 19.0	5 23.8	4 19.0	2 9.5	4 19.0	1 4.8		21 100	23
	4	ハワイ南西 (5°N 以北)	6— 8N 180—159W	92	34 9.3	18 4.9	40 11.0	67 18.4	98 26.9	18 4.9	16 4.4	12 3.3	23 6.3	18 4.9	6 1.6	8 2.2	3 0.8	3 0.8		364 100	631
	1	タヒチ	17— 22S 157—154W	20									2 28.6	1 14.3		1 14.3	1 14.3	2 28.6		7 100	34
か	20	35— 40N 150E—180	34— 40N 149E—180	349	5 10.4	1 2.1				3 6.2	4 8.3	8 16.7	9 18.7	4 8.3	8 16.7	4 8.3	1 2.1	1 2.1		48 100	52
	9	30— 35N 150E—180	33— 36N 152—174E	128					1 3.0	2 6.1	2 6.1	5 15.2	8 24.2	7 21.2	4 12.1		3 9.1	1 3.0		33 100	33
	1	南海	31— 32N 137—139E	15			1 50.0					1 50.0								2 100	2
	1	南洋北部 (170°E以東)	10— 13N 168—175E	8	2 5.6	5 13.9	9 25.0	7 19.4	7 19.4	3 8.3		1 2.8			1 2.8			1 2.8		36 100	54
	2	南洋北部 (170°E以西)	10— 11N 164—167E	30	46 20.4	32 14.2	48 21.2	58 25.7	28 12.4	4 1.8	4 1.8	2 0.9	3 1.3	1 0.4						226 100	311
わ	4	南洋南部 (170°E以東)	2— 9N 170—176E	46	58 10.9	55 10.3	108 20.3	117 22.0	106 19.9	21 3.9	11 2.1	12 2.3	20 3.8	12 2.3	4 0.8	3 0.6	4 0.8	2 0.4		533 100	519
	10	南洋南部 (170°E以西)	3— 10N 133—170E	163	64 9.3	124 18.0	162 23.6	151 22.0	84 12.2	24 3.5	19 2.8	11 1.6	16 2.3	12 1.7	6 0.9	4 0.6	4 0.6	6 0.9		687 100	1470
	15	ソロモン	0— 16S 144—163E	327	72 8.3	78 9.0	184 21.2	157 18.1	188 21.7	60 6.9	29 3.3	29 3.3	23 2.7	16 1.8	12 1.4	10 1.2	5 0.6	4 0.5		867 100	1051
	8	ニューカレドニヤ	14— 29S 147—168E	177	5 1.7	11 3.8	23 7.9	36 12.4	73 25.1	25 8.6	19 6.5	12 4.1	14 4.8	12 4.1	17 5.8	14 4.8	10 3.4	20 6.9		291 100	345
	3	バンダ フロレス	3— 7S 124—134E	61	4 3.4	5 4.2	8 6.8	20 16.9	42 35.6	21 17.8	10 8.5	5 4.2			2 1.7		1 0.8			118 100	159
	2	小スンダ チモール	12— 15S 116—122E	39	2 3.8	1 1.9	2 3.8	3 5.7	11 20.8	15 28.3	6 11.3	4 7.5	1 1.9	4 7.5	1 1.9	3 5.7				53 100	55
	1	ジャワ	8— 12S 105—110E	23			1 2.6	1 2.6	11 28.9	7 18.4	13 34.2		1 2.6	1 2.6	1 2.6			2 5.3		38 100	43
	1	西部印度洋	23— 27S 51— 64E	35		1 2.4		1 2.4		4 9.5	9 21.4	8 19.0	1 2.4	5 11.9	5 11.9	2 4.8	5 11.9	1 2.4		42 100	54

魚種	測定船数	漁　場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131 — 140	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 — 190	191 — 200	201 — 210	211 — 220	221 — 230	231 — 240	241 — 250	251 cm 以上		計	漁獲尾数
しろかわ	1	ガラパゴス	7— 9S 120—109W	34							1 25.0			1 25.0		1 25.0	1 25.0			4 100	8
	1	0— 15S 140—120W	5— 7S 135—124W	36					1 5.6		1 5.6	3 16.7	2 11.1		2 11.1	1 5.6	2 11.1	6 33.3		18 100	20
	2	アルキペラゴ	18— 21S 141—132W	56						1 11.1	3 33.3	1 11.1	1 11.1			1 11.1		2 22.2		9 100	12
	1	ハワイ南東 (5°N以南)	2— 5N 147—140W	12											1 25.0			3 75.0		4 100	4
	2	ハワイ南西 (5°N以北)	6— 8N 170—159W	45					1 16.7	1 16.7	1 16.7						1 16.7	2 33.3		6 100	7
	1	タ ヒ チ	17— 22S 157—154W	20			1 6.7	1 6.7			2 13.3		1 6.7			4 26.7		6 40.0		15 100	19
	5	35— 40N 150E—180	34— 37N 149—176E	106	1 5.9		3 17.6	2 11.8	2 11.8	4 23.5					2 11.8	1 5.9		2 11.8		17 100	17
	1	南洋北部 (170°E以西)	10— 11N 164—167E	17								1 100.0								1 100	1
	8	南洋南部 (170°E以西)	3— 10N 135—170E	143			1 5.0	2 10.0	2 10.0	5 25.0	3 15.0		2 10.0		1 5.0		2 10.0	2 10.0		20 100	23
	14	ソロモン	0— 16S 144—163E	299	18 3.3	5 0.9	26 4.7	100 18.2	42 7.6	62 11.3	69 12.5	45 8.2	36 6.5	27 4.9	13 2.4	9 1.6	20 3.6	78 14.2		550 100	1020
	11	ニューカレドニヤ	14— 29S 146—168E	215		6 1.4	20 4.8	32 7.6	25 5.9	43 10.2	61 14.5	31 7.4	46 10.9	29 6.9	15 3.6	17 4.0	12 2.9	84 20.0		421 100	681
	3	バンダフロレス	3— 7S 124—134E	61		5 5.4	26 28.0	12 12.9	4 4.3	12 12.9	11 11.8	6 6.5	8 8.6	4 4.3	4 4.3	1 1.1				93 100	90
	2	小スンダチモール	12— 15S 116—122E	39	2 1.4	28 18.9	62 41.9	23 15.5	1 0.7	6 4.1	9 6.1	3 2.0	7 4.7	2 1.4	3 2.0	1 0.7		1 0.7		148 100	191
	1	ジ ヤ ワ	8— 12S 105—110E	23	3 4.0	7 9.3	23 30.7	11 14.7	6 8.0	8 10.7	7 9.3	3 4.0	3 4.0	3 4.0	1 1.3					75 100	152
	1	西部印度洋	23— 27S 51— 64E	35						2 15.4	2 15.4	1 7.7		2 15.4	4 30.8	1 7.7	1 7.7			13 100	17

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221 cm 以上		計	漁獲尾数
まかじ	1	ガラパゴス	7— 9S 120—109W	34					4 8.7	3 6.5	8 17.4	6 13.0	4 8.7	8 17.4	9 19.6	2 4.3	2 4.3			46 100	131
	1	0— 15S 140—120W	5— 7S 135—124W	36				1 2.6		8 20.5	6 15.4	11 28.2	9 23.1	3 7.7	1 2.6					39 100	40
	2	アルキペラゴ	18— 21S 141—132W	56					1 0.8	8 6.4	25 20.0	38 30.4	33 26.4	16 12.8	4 3.2					125 100	256
	6	30— 40N 180—140W	31— 33N 157—141W	111	1 0.2	5 1.1	47 10.7	123 28.1	132 30.1	64 14.6	58 13.2	6 1.4	2 0.5							438 100	760
	1	ハワイ南東 (5°N 以北)	6— 8N 157—145W	16				1 7.1		7 50.0	5 35.7	1 7.1								14 100	8 (15)
	1	ハワイ南東 (5°N 以南)	2— 5N 147—140W	12						3 30.0	4 40.0	2 20.0		1 10.0						10 100	4
	1	ミッドウェー	29— 30N 177—168W	18		1 2.6	7 17.9	18 46.2	11 28.2	2 5.1										39 100	39
	6	ハワイ南西 (5°N 以北)	5— 8N 180—159W	109	2 5.3	1 2.6	1 2.6	1 2.6	3 7.9	15 39.5	9 23.7	3 7.9	2 5.3	1 2.6						38 100	40
	1	タヒチ	17— 22S 157—154W	20							10 15.9	27 42.9	21 33.3	5 7.9						63 100	233
	1	トンガ	24— 28S 176—172W	28					1 2.3	2 4.5	6 13.6	15 34.1	10 22.7	8 18.2	2 4.5					44 100	119
	34	35— 40N 150E—180	34— 40N 149E—180	585	41 2.2	15 0.8	73 4.0	420 23.0	780 42.6	403 22.0	85 4.6	10 0.5	1 0.1					1 0.1		1829 100	2168
	10	30— 35N 150E—180	33— 36N 152—164E	141		1 0.2	36 7.2	185 36.9	212 42.2	54 10.8	11 2.2	1 0.2		2 0.4						502 100	463
	1	南海	31— 32N 137—139E	15		2 4.4	7 15.6	26 57.8	10 22.2											45 100	45
	1	南洋北部 (170°E以東)	10— 13N 168—175E	8			1 16.7		1 16.7	2 33.3		2 33.3								6 100	4
	2	南洋北部 (170°E以西)	10— 11N 164—167E	30				4 25.0	2 12.5	8 50.0		1 6.3	1 6.3							16 100	14
	2	南洋南部 (170°E以東)	2— 7N 170—176E	30			1 11.1		3 33.3	1 11.1	4 44.4									9 100	23

	4	南洋南部 (170°E以西)	4— 10N 141—170E	85	1 5.9	1 5.9	2 11.8	1 5.9	3 17.6	7 41.2		2 11.8								17 100	16
	11	ソロモン	0— 16S 144—160E	262				1 1.0	5 5.0	4 4.0	14 14.0	31 31.0	31 31.0	9 9.0	5 5.0					100 100	99
き	12	ニユー カレドニヤ	14— 29S 146—168E	246		1 0.1	3 0.4	2 0.3	10 1.5	17 2.5	55 8.1	229 33.6	209 30.6	119 17.4	30 4.4	7 1.0				682 100	1513
	2	バンダ フロレス	3— 7S 124—134E	44				2 25.0	6 75.0											8 100	8
	2	小スンダ チモール	12— 15S 116—122E	39			6 1.9	41 13.1	185 59.3	64 20.5	10 3.2	5 1.6	1 0.3							312 100	781
	1	ジャワ	8— 12S 105—110E	23				2 7.1	12 42.9	9 32.1	4 14.3	1 3.6								28 100	38
	1	西部印度洋	23— 27S 51— 64E	35			1 4.0		7 28.0	12 48.0	3 12.0		2 8.0							25 100	48
魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80 cm 以下	81 —90	91 — 100	101 — 110	111 — 120	121 — 130	131 — 140	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 — 190	191 — 200	201 cm 以上		計	漁獲尾数
	1	ガラパゴス	7— 9S 120—109W	34														2 100.0		2 100	14
	2	アルキ ペラゴ	18— 21S 141—132W	56													1 50.0	1 50.0		2 100	14
め	5	30— 40N 180—140W	30— 39N 178—141W	83	3 13.6		1 4.5	4 18.2		1 4.5	4 18.2		1 4.5		1 4.5	3 13.6	2 9.1	2 9.1		22 100	22
	1	ハワイ南東 (5°N 以南)	2— 5N 147—140W	12						1 14.3					1 14.3		3 42.9	2 28.6		7 100	3
	3	ハワイ南西 (5°N 以北)	6— 8N 180—159W	65	3 25.0					1 8.3		1 8.3		5 41.7	1 8.3			1 8.3		12 100	14
	1	タヒチ	17— 22S 157—154W	20							1 10.0		1 10.0		2 20.0	3 30.3	2 20.0	1 10.0		10 100	13
	1	トンガ	24— 28S 176—172W	28													1 100.0			1 100	21
か	2	チヤタム	35— 38S 180—178W	36						2 18.2	1 9.1			2 18.2	1 9.1		1 9.1	4 36.4		11 100	7
	2	40— 45N 150E—180	39— 42N 166—173E	53		2 0.8	10 3.9	7 2.7	22 8.5	27 10.5	16 6.2	1 0.4	8 3.1	11 4.3	22 8.5	27 10.5	39 15.1	66 25.6		258 100	702

じ	27	35—40N 150E—180	34—40N 149E—180	490	11 1.2	8 0.8	63 6.6	45 4.7	118 12.4	60 6.3	30 3.2	17 1.8	55 5.8	58 6.1	104 10.9	130 13.7	106 11.4	146 15.4		951 100	1226
	10	30—35N 150E—180	33—36N 152—174E	143	7 2.7	6 2.3	28 10.7	26 9.9	22 8.4	29 11.1	11 4.2	4 1.5	20 7.6	11 4.2	21 8.0	29 11.1	20 7.6	28 10.7		262 100	263
	1	南海	31—32N 137—139E	15								1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0				5 100	5
	1	南洋北部 (170°E以西)	10—11N 164—167E	13	3 100.0															3 100	3
	1	南洋南部 (170°E以東)	2—7N 170—176E	13									1 33.3					2 66.6		3 100	2
	5	南洋南部 (170°E以西)	3—10N 133—168E	90	9 34.6	2 7.7	2 7.7		1 3.8	2 7.7	2 7.7	1 3.8	4 15.4		1 3.8	1 3.8		1 3.8		26 100	27
き	11	ソロモン	0—16S 144—160E	264	2 2.9		1 1.5		5 7.4	2 2.9	6 8.8	3 4.4	8 11.8	3 4.4	9 13.2	4 5.9	7 10.3	18 26.5		68 100	68
	11	ニュー カレドニヤ	14—29S 146—168E	230	2 1.4	1 0.7	3 2.2		1 0.7	6 4.3	5 3.6	3 2.2	11 8.0	8 5.8	10 7.2	15 10.9	20 14.5	53 38.4		138 100	155
	2	バンダ フロレス	3—7S 124—134E	44	2 11.1	2 11.1	1 5.6			1 5.6	4 22.2	1 5.6	3 16.7		3 16.7			1 5.6		18 100	18
	2	小スンダ チモール	12—15S 116—122E	39					1 3.7	3 11.1	2 7.4	2 7.4	1 3.7	5 18.5	1 3.7	3 11.1	5 18.5	4 14.8		27 100	27

マグロ漁況概況予報　（1959年11月）

神奈川県水試漁業指導科

1. 太平洋西経中部漁場

北緯5°から10°までのパルミラから西経140°にかけての海域のクロカワは，10月にひき続き好漁ですが，漁獲は低下し始めるので0.5屯になるでしょう．

2. 太平洋西経南部漁場

西経140°から110°にかけての海域の，0°から南緯2°までの水帯ではキハダが好漁で，漁獲は4.5屯，0°から南緯5°までの水帯と南緯8°から10°までの水帯ではメバチが好漁で，漁獲は，北側の海域が10月より上昇して5.9屯，南側の海域は10月より低下して2.9屯程度になるでしょう．

10月に全海域にわたって不漁になったビンナガは，タヒチ，パウモツ，マーケサス周辺を除く南緯10°から22°までの180°から西経140°にかけての海域と，南緯15°から30°までの西経140°から110°までの海域が好漁になりますが，漁獲は比較的低く，北西側の海域が0.8屯，南東側の海域は0.5屯程度でしょう．

クロカワは，西経160°から140°までの北緯5°近くの海域が，10月にひき続き好漁で，漁獲は0.5屯になります．また，パウモツ周辺は11月から極めて好漁になり，漁獲は西部が1.8屯，東部が1.4屯になるでしょう．

3. 太平洋東経北部漁場

メバチは，伊豆諸島東西海域，ウラカス，南鳥島周辺，及びミッドウェー北西の3海域が好漁で，漁獲は0.6屯になります．ビンナガは北東海域から出現し始め，北緯30°から40°までの東経170°から180°にかけての海域の漁獲が高くなりますが今年は不漁になる見込で漁獲は0.5屯以下でしょう．

マカジキの漁場は10月より稍南下し，北緯31°から36°にかけての海域が好漁で，漁獲は0.3屯程度．

メカジキは，伊豆諸島東方海域の他に，北緯37°から43°までの東経150°から180°にかけての海域も好漁になり，漁獲は，伊豆諸島東方海域が0.5屯，東北方の海域が0.3屯程度でしょう．

4. 太平洋東経中部漁場

メバチは，北緯5°から12°までのパラオからポナペにかけての海域が好漁期に入りますが，漁獲は0.9屯程度．

0°から北緯5°までの東経130°から170°にかけての海域のキハダは好漁期に入りますが，31年以降漁獲が僅かづつ低下していますので，漁獲は1.4屯程度になるでしょう．

5. 太平洋東経南部漁場

0°から南緯15°までの東経130°から170°にかけての海域のキハダは好漁になり，漁獲は，南緯5°以北の海域が2.0屯，南緯10°から15°までの海域が1.2屯になるでしょう．

6. 東部印度洋漁場

バンダ，フロレス海は10月にひき続きキハダとメバチが好漁で，漁獲はキハダ2.2屯，メバチが1.4屯．

東部印度洋のキハダは，西ないし南から好漁になり始め，11月は，北緯6°から20°までの東経90°から105°にかけての海域が漁獲1.9屯から2.2屯，南緯20°から30°までの東経90°からオーストラリア沖合にかけての海域が漁獲1.9屯で好漁になるでしょう．

メバチの好漁海域は10月より稍北に拡大し，北緯6°から南緯12°までの東経90°から105°にかけての海域と，ジャワ沖合の南緯10°以北の沿海が好漁で，鈎獲率は，ジャワ沖合が1.4屯，その他の海域が1.8屯程度になり，ビンナガは，南緯20°以南，東経100°以西の洋心部のみが好漁で，漁獲は10月より稍高く1.2屯になるでしょう．

7. 大西洋漁場

キハダの好漁海域の分布は，北半球における冬型分布に変わりつつあり，北緯5°から南緯5°までの海域と南緯5°以南の西経30°以東の海域が好漁になり始め，漁獲は全般的に，6.8屯程度です．

かつおまぐろ漁業の現況とその問題点

北洋さけます漁業者による かつおまぐろ漁業転換問題に関連して

日本鰹鮪漁業協同組合連合会
日本鰹鮪漁業者協会

はしがき

去る5月，日・ソ漁業交渉の妥結は，昭和34年度の母船式北洋さけます漁業の漁獲量を5万8千トンに決定した．

これを契機として北洋漁業の再編成問題が論議され，母船式さけます独航船のかつおまぐろ漁業等への転換運動が，さけます漁業者によって展開された．

そして，政府，政党関係当路者も，これについて考慮を払うごとき報道が新聞等によってしきりに伝えられた．

われわれ全国のかつおまぐろ漁業者は，これらの動きに大きな衝撃をうけ，われわれのおかれている立場とその実情から，かつおまぐろ漁業への転換に強く反対を叫んで来た．これは全国のかつおまぐろ漁業者の一致した強い意志である．

われわれは，決して故なくして反対しているものではない．況んや，単なる利己，排他的な気持などでは勿論ない．

緒言＝漁業問題に対するわれわれの考え方

日本漁業の危機が叫ばれてから久しい．新聞はその深刻な危機の様相を毎日のように報道し，国民の関心を呼んでいる．だが，新聞報道や国民の関心は，主として政治的角度において焦点が合わせられているように思う，即ち，一般にいうところの「漁業の危機」は，ある特定の海域での2国，あるいは数ヵ国の政治力の激突，という形で認識され，国際的に力の弱い日本が結局後退を余儀なくされる．日本漁業の危機は，一般にはこうした形でとらえられる．

然し，危機の全容は必ずしもそれだけではなく，それはむしろ一部にしか過ぎない．真の危機は漁業内部の全段階，生産から消費までのあらゆる段階にわたって分散している自然的な条件および経済的諸問題の行詰りにあるとみるべきであろう．

漁業の危機を政治問題として割り切り，政治のみの責任に帰し，そこから総べての解答を引出そうとする考え方は安易であり，漁業の合理的発展を阻害する．何故なら，この論法でゆくと，漁業に有利な条件を与えてくれるのは，政治や行政だけであって，漁業者自身の合理的意欲は何等これを必要としないからである．北洋さけます漁業者のかつおまぐろ漁業転換問題について，われわれかつおまぐろ漁業者が反対する論拠の一つがここにもある，しかし，それにもましてかつおまぐろ漁業の現状が，以下についてのべるように苦境の連続であり，一歩間違えば，忽ち全面的な混乱に陥る危機をはらんでいることを強調しなくてはならない．

われわれかつおまぐろ漁業者は，このなかにあって一致協力，営々と努力をつみ重ねている．与えられた枠のなかであらゆる合理化の苦しみに耐え，自力打開への途をたどっている．このような状勢下，もし，北洋さけます漁業者の政治力による介入が実現するとならば，正しい漁業秩序がどうして保たれるといえようか，疑いなきを得ない．

われわれが，ここにこの小冊子を公表し敢えて世論に訴えんとするところは，「何が故に，北洋さけます漁業者の要求を入れることができないか」その理由をかつおまぐろ漁業の現状と当面する問題点のなかに説明せんがためである．

識者各位が，これを公正に理解され，われわれの真摯な努力に味方するであろうことを信じて疑わない．

かつおまぐろ漁業の現勢

1.　「かつお・まぐろ」の大衆性

「かつお・まぐろ」は一般に刺身用の高級魚であるとの認識が根強い．高級魚であれば稀少価値が身上であり，従って，かつおまぐろ漁業とは特殊な漁業だと思われがちである．しかし，これは少なくとも戦前のことである．今日のかつおまぐろ漁業は漁法，漁場，漁船など生産条件の著しい変ぼうと，これによる生産量の圧倒的増大によって，文字通り大衆魚の大宗としての地位を確保している．

ついでながら，ここに魚の消費価値の変せんについてふれると，戦前における大衆魚の王様はいわしであった．

かつて年間約160万トン（4億3千万貫余）日本の全漁獲量の四割余を占め，漁期にはとれすぎて砂浜につみあげられ，徒らに腐らせるようなことさえあったこのいわしも，戦後は海況その他の変化によって全くとれなくなった．この結果，質，量，価格ともに，大衆魚としての地位を失いつつある．このような例は塩蔵さけますにもいえる．その昔，昼弁当の菜として下層の労働者でさえ容易に親しんだ塩さけも，現在では，キロ当り210円から400円（貫当り800円から1,500円）もする．（東京市場卸売価格）通例魚屋で売っている切身は（一切20匁とされているが）最早20円では買えない．これに反してまぐろはどうか．通例刺身に供されるまぐろ類の東京市場卸売価格を調べてみると，昭和32年度の平均価格は，キロ当りめばち120円（449円1貫），きわだ95円（356円1貫），めじ136円（508円1貫），最高級品といわれる黒まぐろでさえ169円（634円1貫）にすぎない．要するに魚の価値も，その生産条件の変化によって大きく変るのである．

2. 現勢と重要性

「かつお・まぐろ」は大衆魚である．かつおまぐろ漁業は大衆性を基調にした日本漁業における基幹的な漁業である．生産量，漁船勢力においてそうであり，漁業そのものが生み出す価値においてそうであり，外貨獲得額においてもそうである．この点については，従来一般には比較的見落されていた点であり，われわれ関係者がかねて遺憾に思っていたことである．ここに識者各位の認識を改めてお願いすると同時に，わが国におけるかつおまぐろ漁業の重要性をその現在の姿において卒直に披瀝してみたいと思う．

(1) 漁獲

昭和32年度における日本の全漁獲量は5百5万9千トン（13億4千9百8万貫）（捕鯨，浅海，内水面養殖業，内水面漁業を除く）であるが，このうちかつおまぐろ漁業は44万6千トン（1億1千9百万貫）．全漁業に占めるかつおまぐろ漁業のウエイトは約1割，沿岸漁業をのぞく遠洋漁業中最大の規模を有している．参考までに他の所謂遠洋漁業における漁獲量を主なる漁業種別にあげてみると

以西トロール及び底曳＝33万7千トン
母船式さけます漁業＝10万トン
さけます流網漁業＝5万5千トン
北洋トロール漁業＝2万4千トン
母船式かに漁業＝2万1千トン

となる．（トン＝M/T）

(2) 漁船

同じく昭和32年末における日本全国の5屯以上の動力漁船総数は2万6千余隻，111万屯に達する（漁船登録による）．このうち許可を有するかつおまぐろ漁船（40屯以上のもの）は，1243隻，20万200余屯で，全漁船中，屯数において2割に近い勢力を保っている．北洋母船式さけます漁業の461隻，3万4千余屯，以西底曳の767隻，6万2千余屯と対比すれば圧倒的な保有量といわなければならない．

漁船登録による昭和32年の総屯数5屯以上の動力漁船勢力は次のとおりである．

かつおまぐろ	21万2千屯	(1,681隻)
機船底曳	8万0千屯	(3,741隻)
以西機船底曳	6万4千屯	(797隻)
刺網	6万3千屯	(2,999隻)
旋網（網船）	5万7千屯	(1,862隻)
〃 （付属船）	4万2千屯	(2,408隻)
一本釣	5万0千屯	(3,189隻)
延縄	4万5千屯	(2,693隻)

遠洋捕鯨	3万8千屯	（ 66隻）
トロール	2万2千屯	（ 53隻）
そ の 他	43万7千屯	（6,776隻）
総　計	1,11万0千屯	（26,265隻）

なお，この中，農林大臣許可漁業の主な漁船勢力は次のようなものである.

かつおまぐろ	20万0千屯	（1,243隻）
以西底曳	6万2千屯	（ 767隻）
以西トロール	1万7千屯	（ 49隻）
中型機船底曳	5万3千屯	（1,353隻）
中型旋網	1万9千屯	（ 600隻）
大型旋網（含，米巾）	1万3千屯	（ 160隻）
捕鯨（除，南氷洋北洋）	9千屯	（ 71隻）
母船式さけます（除，母船）	3万4千屯	（ 461隻）
以南さけます流網	1万7千屯	（ 487隻）

⑶ 輸出

昭和32年度におけるわが国の輸出総額は28億5千8百万ドル，このなかで水産物は1億6千7百万ドル，5・8％である．このままでは決して多い金額とは云えないが，多額を占める輸出品の多くが綿糸布のように原材料を外国から輸入して，これを加工し輸出する，いわゆる加工貿易であるのに対して，水産物の輸出が，外貨を比較的必要としない輸出貿易である点を考えれば，この額も決して小さいものとはいえない．かつおまぐろ類の輸出は，その28・1％を占め，水産物中最高の比率を示し，冷凍品2千4百万ドル，缶詰2千3百万ドル，合計4千7百万ドルの貴重な外貨を稼いでいる．これに対する外貨使用額は，僅かに燃油類33万8千竏等，1千2百万ドルと推定されるにすぎない．外貨効率からみたかつおまぐろ漁業は，ドル不足の日本にとって極めて重要な産業であることが，この一事をもっても諒解できるであろう．なお同年における水産物輸出の順位は次のようになっている．（単位1000ドル、カッコ内は百分比）

1	かつおまぐろ類	46,765千弗	（28.1）
2	さけます缶詰	33,623千弗	（20.2）
3	真珠	16,748千弗	（10.0）
4	鯨油	16,446千弗	（ 9.9）
5	まぐろ・かじき類以外の冷凍水産物	7,568千弗	（ 4.5）
6	いわし類缶詰	6,933千弗	（ 4.1）
7	肝油	6,142千弗	（ 3.7）
8	その他	32,775千弗	（19.5）

以上われわれはかつおまぐろ漁業の重要性を説明した．かつおまぐろ漁業は日本漁業の基幹である．この漁業の維持と合理的な育成こそ，明日の日本漁業の発展に連なる．

しかるに右のように重要なウェイトを占めるに至ったかつおまぐろ漁業も，その直面する現状と個々の実情を少し掘り下げてみると，数多くの複雑な問題をかかえていることがわかる．

かつおまぐろ漁業の実態は右の数字から連想し易いような豊かなものではない．それどころか，緩慢ではあるが，前途を懸念される幾つかの徴候に悩まされてすらいる．端的に表現すると，現状においてそれは未だ病名とはいい難いが，いわゆる一種の体質的衰弱症状ともいえる．

その「症状」とは次のようなものである．（この項つづく次号掲載）

まぐろ研究報告の紹介

No. 5

西太平洋のメバチの産卵水域

木川昭二

（南海区水産研究所報告　5，1957）

1.　西太平洋（140～180°E）のメバチの産卵場は，主として赤道反流の海域に分布していると推定される．

2.　著名漁場の一つとして知られる北赤道流の南縁沿いの海域のメバチも，ちくじ産卵群に補給されるという意味で繁殖集団と考えられる．

3.　それぞれの海流系には異った生活圏としての意義が想定される．

4.　北部太平洋漁場と低緯度海域のメバチ間に相互の補給が行われていると推定される．（紹介　中込）

中部及び西部太平洋のメバチの体長組成と成長

Edwim S. Iverson

(Special Scientific report-Fisheries No. 162
Bureau of Commercial Fisheries)

1.　西部太平洋とハワイ周辺のメバチの魚体は雌雄の間で差がみられ，約88cm（30ポンド）にある雄の体長組成のモードは，雌のモードよりも大型にある．

2.　最も大きなモードをもつグループは，ハワイ周辺においては毎年出現せず，2年周期で出現し，日本近海の魚群における補充の周期と一致する．

3.　ハワイ周辺において隔年に出現する類似のモードは，体長組成における同じ位置に出現せず，再現する度に僅かずつ大型へと移動している．

4.　ハワイ周辺のメバチの成長率は，日本近海のメバチの成長率と殆んど同じであり，ハワイ周辺のメバチも日本近海のメバチも共に凡そ2年周期で出現し，成長率においても出現時においても両海域間に関係がみられる．

5.　ホノルル市場において1947年11月から1954年12月にかけて測定したメバチの月別体重組成の図は，モードが小型から大型へと一貫して移動し続けている様子を表わしている．

6.　これらの体長組成のモードを結ぶことによって得られた推定成長曲線は，ハワイ周辺のメバチが1年に50ポンド増加し，約6，7年生きていることを指摘している．

7.　赤道付近のメバチのモードは時期によって変化することはない．　（訳と紹介　中　込）

マグロ類標識放流について

◇ 1959年8月1日から9月30日までの間に放流実施の報告のあった船名，及び概要は次表に示す．

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
船川丸	×0191,	1959.7.12	3.36N 165.35W	メバチ（1）
〃	×0195, ×0192	1959.7.19, 20	3—5N 164—163W	キハダ（1） メバチ（1）
〃	×0196, ×0197 ×0200,	1959.7.25, 27, 30	1—3N 168—165W	キハダ（1） メバチ（2）
〃	×0198, ×0199	1959.8.8, 16	1—2N 173—170W	キハダ（1） メバチ（1）

第23黒潮丸のユーゴスラビア水揚だより

＝ 目下大西洋漁場で操業中の日魯漁業KK第23黒潮丸（791トン）は7月下旬ユーゴスラビアに入港漁獲物を水揚したが，この程同船坂井通信士より珍らしい水揚地の様子を伝えてきたので掲載させて頂いた．（原文のまま）＝

ベラルカの水揚

拝啓　盛夏の折皆様お変りありませんか，お伺い申し上げます．小生相変らず元気で働いております他事乍ら御安心下さい．7月27日ユーゴスラビアのベラルカに最初の水揚をし半分をリエカに揚げ8月5日リエカ発再び漁場に向いました．水揚地の様子を見たままにお伝えします．

アドリア海を北上すると西はイタリア東側がユーゴスラビアの沿岸に点在する大小無数の島々です．最初に入港した所はその内の一つコルチュラ島ベラルカ（VELALUKA）で一面になだらかな丘が連らなり民家が全然見えません．詳細な海図が無く大体この辺だと言う心細い有様で仕方なく本船は錨泊し漁艇をおろし航海士が乗り私は電話を受け持ち偵察し乍ら近づいて行くと小島がありこの奥が壺の様に開けた天然の良港になっていて赤い屋根の建物がポツポツと並んでいます．日の丸を立てた我々のボートを皆けげんな顔で眺めていて，港を間違えたのではないかと思った位いです．岸壁に行くと前もって連絡した通り日本の貿易社駐在員，パイロット，関係者数人がすぐ来てボートに乗り本船にもどり漸く入港出来ました．港の入口の近くに細い煙突を一本建てた缶詰工場の棟が岸壁と付いていて最近建築されたと思われるコンクリートのぬりあとも新しい棟が2，3ある小工場です．3～40トンの小型漁船ばかりのここでは本船を漁船と思ったでしょうか，一様に驚奇の目で見張っていました．早速水揚にかかり約200トンばかり揚げましたが，この工場はその内の3分の1程で他は漁船がこの島以外の各工場へ運搬して行きました．聞く所によると今はトロールの漁がなく各小工場が小競合っているそうです．早朝4，5隻の網船が手を振って出て行きましたが大した事ないそうです．この工場では10センチ程の小イワシを4本宛オリーブ油漬けにして缶に詰めていましたが，家内工業に足が生えた程で製函のハンダ付け等一つ一つ手に取っていました．自家発電で冷凍機等運転していましたが大きな能力はない様です．驚いたのは水揚げの秤で日本では明治時代使ったしろものです．しかも錆ついてクモの巣のかかったどこかの倉からでも出して来たらしいもので荷を乗せて計るのにどこかひっかかっていて足でけとばさないと

リエカ（港の一部）

リ　エ　カ（街の中心部）
夕刻の雑踏は一寸した銀座界隈を思わせる

動かない始末でした．人々は良く働き年老いたおばさん達が重い魚を手に取って荷車で運んでいる姿は痛々しい感じですが，周囲の者は平気な顔でやはり国情が違うのだと強く感じました今はソ連圏より脱出して西欧側にあると言われますが赤い星の国旗を窓々にかかげられた国営の商店やファンネルマークが赤い星の船等大体が全部国営のもので人々は一定の収入で一定の財産以上は私有出来ないそうです．この島では消費物資が非常に不足していて店先に並べられた商品は貧しく粗悪です．本国とは数十浬距り交通の不便もありますが，ユーゴスラビア全面積が日本の約３分の２しかなく人口もずっと少なく４分の１弱1,800万人だそうですから比較にはならないでしょう．町の人達は誠実素朴でタバコ等進めると自分のタバコを必ず返すと言った善良そのものです．或る船員などビールやブドウ酒をごちそうになり喜んでいました．娯楽施設と言ったら映画館が一つありアメリカのフイルムを上映していましたが，余り入っていない様でした．日が暮れると岸壁の通りを涼みにそぞろ歩く人達で賑やかです．薄暗いくすぼった石の部屋にじっとしていられないのでしょう．ベンチにいつまでも話しています．古い水路誌には人口6,000人の町とありますが，人々の娯楽は散歩だけでしょうか．港の一角で毎日日没後から夜11時頃まで水球の試合があり町中の人達女子供まで勢んに声援を送ってボールが入る毎に上る歓声が遠くまで聞えます．我々が何をやっているのだろうと人垣の後から背伸びして見ていると前をわざわざ開けて見せてくれましたが，若者達が元気良く水しぶきを上げていました．地理的には北海道とほぼ同緯度にあり乍ら日中は暑く港の中や付近の岸にはビキニスタイルの海水浴客が多く我々船員一同は大いに悩まされました．水揚も終り凪平隠なアドリア海を数十時間北上すると内海を思わせる大小さまざまな島々を見てこの国ではスピリットに次ぐ第二の港町人口10万のリエカ(RIJEKA)に入ります．前の島とは違い流石に貿易港にふさわしく大型貨客船が数隻あわただしく動き廻っていて岸壁施設も１万トン級の船が数隻横付け出来良く整備されています．由緒あるらしい古びた教会の尖塔や青や白のドームから変５階建のアパートの群が一杯です．水揚げはデリックから直接トラックに積み車ごと秤にかけ車の重量を引くやり方で至極能率的です．ターリーマン君にユーゴーの数字（1.イエダン　2.ドウワー　3.トリー　4.チェットリ……）を習って記録します．ここの人々も皆働き者で仕事上意見が合わないと口から泡をとばせて言い合う有様はっています．町には日用品等あらゆる物が出ていますが，一般に割高（米ドルの１ドルが400デナル）で品質も落ちます．ここも商店等国営ですから開店時間が朝８時より12時迄と17時より20時迄の僅か数時間に限られ我々には大分勝手が違います．又色々の人種が集まっているらしくドイツ語ありイタリア語ありですが，我々をインドネシアかと問われたのにはガッカリしました．No!! JAPANだと言うとじろじろ足の先まで眺められ中には握手を求める者もいました．日本だと言うとカメラかトランジスターを持っていないかと言われこんなに有名なのかと驚きました．飲食店やスタンド，ドラッグ，ストアーなどは日中やっていて日中でも広場の並木の下や路地をうまく利用した所に椅子を出して市民の群がビールやアイスクリームを楽しんでいます．ビールは割合に安く我々もビールにしばし沖の苦労を忘れたのでした．町の中心には映画館が四つ程ありアメリカのフイルムが多かった様です．又町はずれの海水浴場は大賑いで享楽の自由は保障されていると言われますが，若い群像の夏を楽しむ姿はたのもしき限りです．時々カーキ色の自衛隊が数人町を巡回していますが平和であれと願われます．水揚終了後の夕刻ターリーマン君にさそわれ近くの居酒屋でビールをおごられ乾杯，ブラボーの連呼でした．我々はこれから大西洋に出て３ヵ月余りを海上生活だと説明するとGOOD-LUCKに通じる意味の言葉を叫んで固い握手を交し別れました．日が山の向うに落ち赤く夕映えし連なる山々が浮き出して町の火が点滅する頃本船はコースを南に向け一路大西洋漁場に向いました．次第に遠くなる火を船尾で眺め乍らアメリカとソ連の大きな二つの世界にはさまれたユーゴスラ

ピアの平和を願わずにいられませんでした．

8月7日イタリーシシリー島のカタニアで氷を積み19日アフリカのダカールで油を積み操業にかかります．先ずはお知らせまで，暑さ厳しい折御身御自愛下さい．

敬具

8月15日

坂井真澄

永井場長様

業界メモ

1959年9月

9月9日 遠洋カツオマグロ船環境調査

遠洋カツオマグロ船の労働環境並びに労働条件と栄養状態との関係を明らかにし今後の改善のための資料とするための調査が焼津港所属の第25春日丸，第7八千代丸を対象に行われているが，この調査は全国でも初めての試みであり，労働科学研究所でくわしいデーターの整理が行われるもので関係各方面から大きな期待が寄せられている。（水経）

9月16日 キワダ共販年内に発足

日本冷凍マグロ輸出水産業組合は15日理事会を開き，冷凍キハダ共販会社設立要項案を審議，その結果船東側7社，陸凍側7社からなる設立準備委員会を作り，来る29日臨時総会を開き本格的に具体化に乗り出すことになった。（水経）

9月17日 母船第3天洋丸帰港す

南太平洋フイジー海域に出漁した大洋漁業のマグロ母船第3天洋丸（3.628トン）は9月16日帰港した。総漁獲量内訳は次の通りで，田中船団長はフイジー諸島の南側（32—35度）漁場がよく今年は天候にめぐまれビン長は総漁獲高の44％を占める好調だと語った。

総漁獲量 5.035トン

ビン長＝2.203トン（44％）
キハダ＝1.108トン（22％）
他マグロ＝555トン（10％）
カジキ＝517トン（10％）
サメ類＝591トン（13％）（水経）

9月17日 ジヤワ沖インド鮪漁開始

農林省照洋丸は近く北大西洋カリブ海，濠州南沖漁場調査のため出港する．昨年発見されたジャワ沖海区南緯25度以南漁場の良質のインド鮪漁が今年も開始されるが，16日焼津に入港，水揚した第2福久丸（308トン）は漁場は南緯9～15度東経105～122度，漁期9月中旬～下旬を最高に10月まで，2～3月にはやや西下した海区，1回3000〆は確実といわれる。（港報）

9月23日 マレーに鮪基地

海外漁業ＫＫでは，マレーとの合弁による前進基地設置に成功，来る10月から現地水揚の手配が出来たので全国カツオマグロ漁協組連合会での打合せ会で，全国からの参加船20隻の決定，現地での水揚，操業方法などを協議するがすでに現地には冷蔵庫，カン詰加工工場なども建設されている。（港報）

9月29日 日米マグロ会談の開催決る

水産庁は28日，日米両国のマグロ漁業についての政府間会談を30日から10月12日まで東京赤坂のプリンスホテルで開くことを発表した議題は (1) マグロの生物学的，生態学的および海洋学的研究並びに資源分布に関する研究 (2) マグロの漁獲及び漁業技術の現状 (3) マグロの利用方法及び加工技術の現状 (4) 日米両国の国内市場のマグロ及びマグロ製品の生産消費及び価格に関する過去の動向の四つである。（朝日）

本会の図書誌の分譲其の他について

◎本会発行の図書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

会　　誌「鮪漁業」第6—62号（第1—5号品切）　各150円　郵送料 16円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月）
　1 部　300円　（B 5 判 150 頁）　郵送料 24円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月）
　1 部　400円　（B 5 判 226 頁）　郵送料 40円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月　至昭和 30 年 3 月）
　1 部　300円　（送料を含む）（B 5 判 126 頁）
鮪類水揚地調査報告（自昭和 30 年 4 月　至昭和 31 年 3 月）
　1 部　400円　（送料を含む）（B 5 判 135 頁）
1956年4月～57年3月に於ける鮪漁場の漁況と海況
　1 部　500円　（送料共）（B 5 判 112 頁）
鮪漁船操業図（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
　1 枚　50円　郵送料 8円
鮪　漁　場　図（海区別に表示したもの）
　10 枚　100円　郵送料 16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願い致します。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1,500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

—— お　願　い ——

◎昭和33年分34年分会費（一ヵ年分 1,700 円）未納の方は本会宛至急払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。　尚整理の都合もあり会費切れの向には一時会誌の送本を中止致しますからお含み願いあげます。

鮪　漁　業
1959年9月号

昭和34年9月10日印刷
昭和34年9月10日発行
監　　修　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅　野　　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　鮪漁業研究会
（振替貯金口座 横浜 1 4 7 2）

営業品目

商船用・漁船用並に陸上用無線通信装置

SSB 無線装置の製造・装備・補修一式

七洋電機株式会社

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地

電話目黒（712）2525・2526・3314番

太洋無線が世界に誇る

各種
陸上用
航空機用
船舶用

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都澁谷区衆樂町48番地

電話澁谷（46）代表5283—9番

▷最高の技術……永い信用◁

営業種目
高級無線通信機
船舶用無線機
高級無線用測定器
超短波通信機
VHF新聞通信社用
ラジオヒーター
放送施設一式
極超短波通信機
ビーコン装置

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話砧(41)(代)7171—9番
電話武蔵調布472番
東京営業所　東京都港区芝西久保櫻川町9　電話芝(43)代表7373—9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25（江商ビル508号室）　電話北浜（23）4553番
福岡出張所　福岡市天神町55（伊藤ビル）　電話中（4）2569・8198番

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵
設計　製作　施工

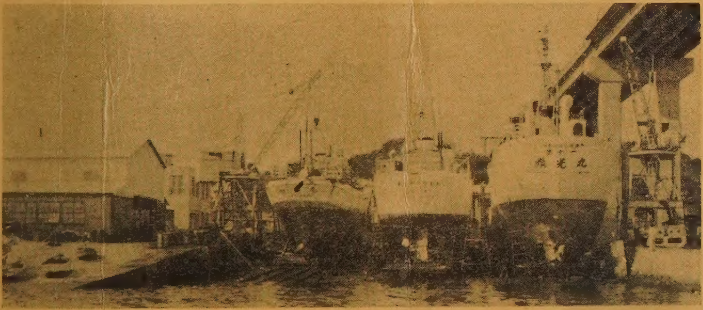
協同低温工業株式会社

本社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58　（夏目ビル2階）
電話　東京（866）0996・0997番

══設備完成══

鋼木船造修一般

500噸船台三基
起重機10噸・5噸各一基



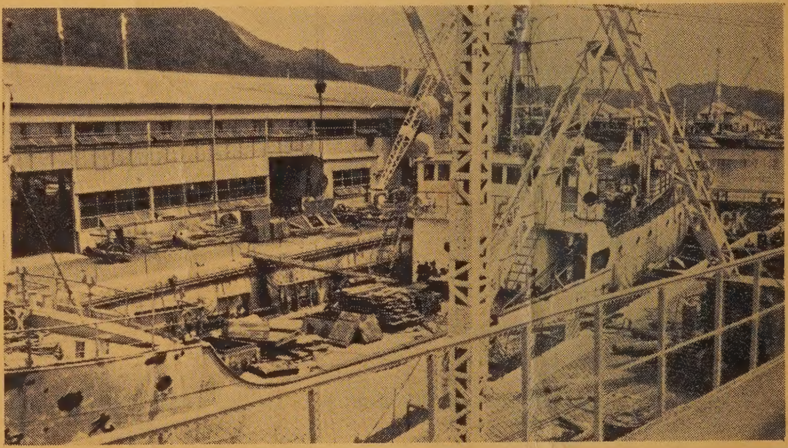
三崎船舶工業株式会社

本社　東京都中央区西八丁堀2の10
電話築地（55）966・15
工場　神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446
電話（三浦）2880・2934・2343

漁船の建造、修理の御相談は

ドライドック	大きさ	長さ	幅		深さ
		59.15米	14.0米		6.6米
	入渠可能船舶	長さ（垂線間）	幅（型）	吃水（平均汐高線1.7米に於て）	総屯数
		57.0米	11.0米	4.41米	800屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50米	500屯	2
		2条軌条式	50米	250屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所　電話下田 1001（代表）～3番　本社現場事務所　電話下田1005（代表）～6番
武ヶ浜工場　電話下田 1008（代表）～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4―4　畜産会館1階　電話東京（54）9270（直通），4121（代表）～8番

紫綬褒章に耀やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業　第六十二号　昭和三十四年九月十日発行　（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可